esse–
sense

FORUM 2024

esse-sense FORUM 2024

「あらゆる研究「知」が、自在に社会と混ざり合う機会を生み出す」

このミッションの元に、株式会社エッセンスは昨年に続き2024年9月24日（火）-25日（水）に東京・八重洲にて第2回となる「エッセンスフォーラム2024 研究知の社会実装に向けて」を開催します。

エッセンスは、2021年9月にユーザー登録型WEBメディアesse-sense（エッセンス）をリリースし、20を超える大学・学術機関と連携しながら140本の研究者のオリジナル取材記事をお届けし、日本最大規模の研究者メディアとして発展してきました。

リリースから3周年を迎える2024年9月に、170名の登壇者と1,000名の現地参加者をお迎えし、共催パートナー、協力機関、協賛企業と共に日本最大の招待制の研究者ビジネスカンファレンスを開催します。また、事前登録制によるオンライン参加のための配信を行います。

本フォーラムは、研究知の社会実装に向けた大学発スタートアップの可能性、研究環境の課題、テーマ別の新たな知との交流に出会うための計34のセッションとピッチプレゼンテーションによる複合型カンファレンスです。

第2回のテーマである「研究知の社会実装（Knowledge to Knowledge Capital）」は、研究知との出会いが社会を前進させる重要なリソースになり得ることを改めて確認し、その可能性と課題を共に深めるためのテーマとして設置しました。

昨年は1日開催の中に21のセッション500名の現地参加者にお越しいただいたエッセンスフォーラム。今年は2日間開催に拡張し、セッション数も招待の範囲と規模もよりパワーアップした密度の高い時間をお贈りしたいと準備を進めています。

多くの皆様とお会いできることを楽しみにしています。

株式会社エッセンス 代表取締役 西村勇哉

ABOUT

日時　2024年9月24日(火)25日(水)10:00-19:00(交流会19:00-20:30)
会場　東京ミッドタウン八重洲イノベーションフィールド4F・5F

主催

esse-sense

共催

MIRA TUKU

共催パートナー

OIST
RITSUMEIKAN
UTRA Commons
Greater Tokyo Innovation Ecosystem
Economics Design Inc.
LabBase
BE-SEO
三井不動産×お茶の水女子大学 &ジェンダード・イノベーション

エコシステムパートナー

STORIUM

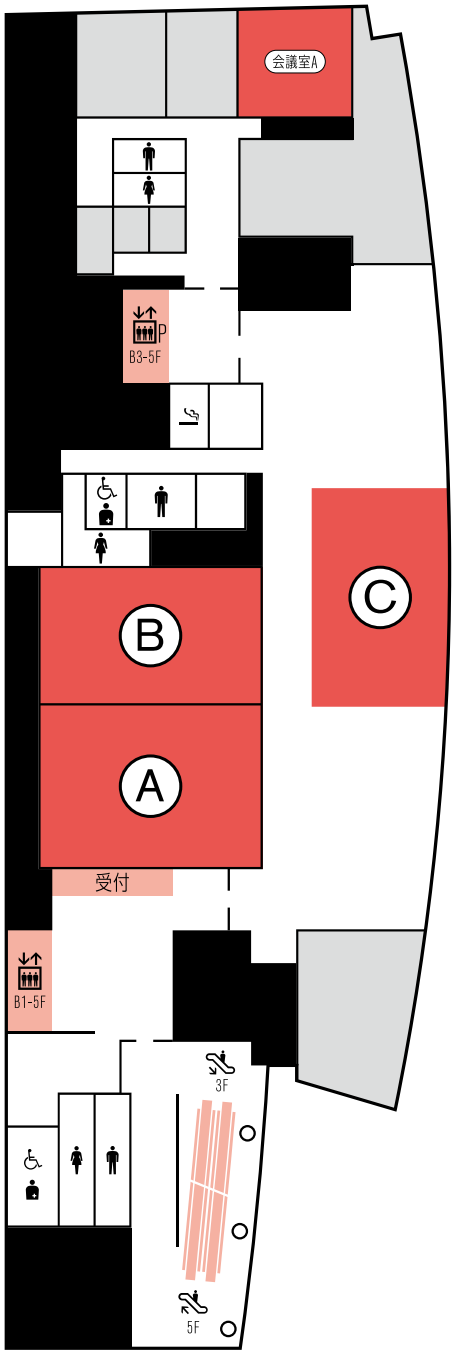
協力

ARCH
JICA
WILSON LEARNING
TOKYO VENTURE CAPITAL HUB
TSDSF Future Design Initiative by Science and Finance
越境
MICHINOKU ACADEMIA STARTUP PLATFORM
PARKS
Tongali
HSFC
WEAT
BMP
NasuconValley
JAAS

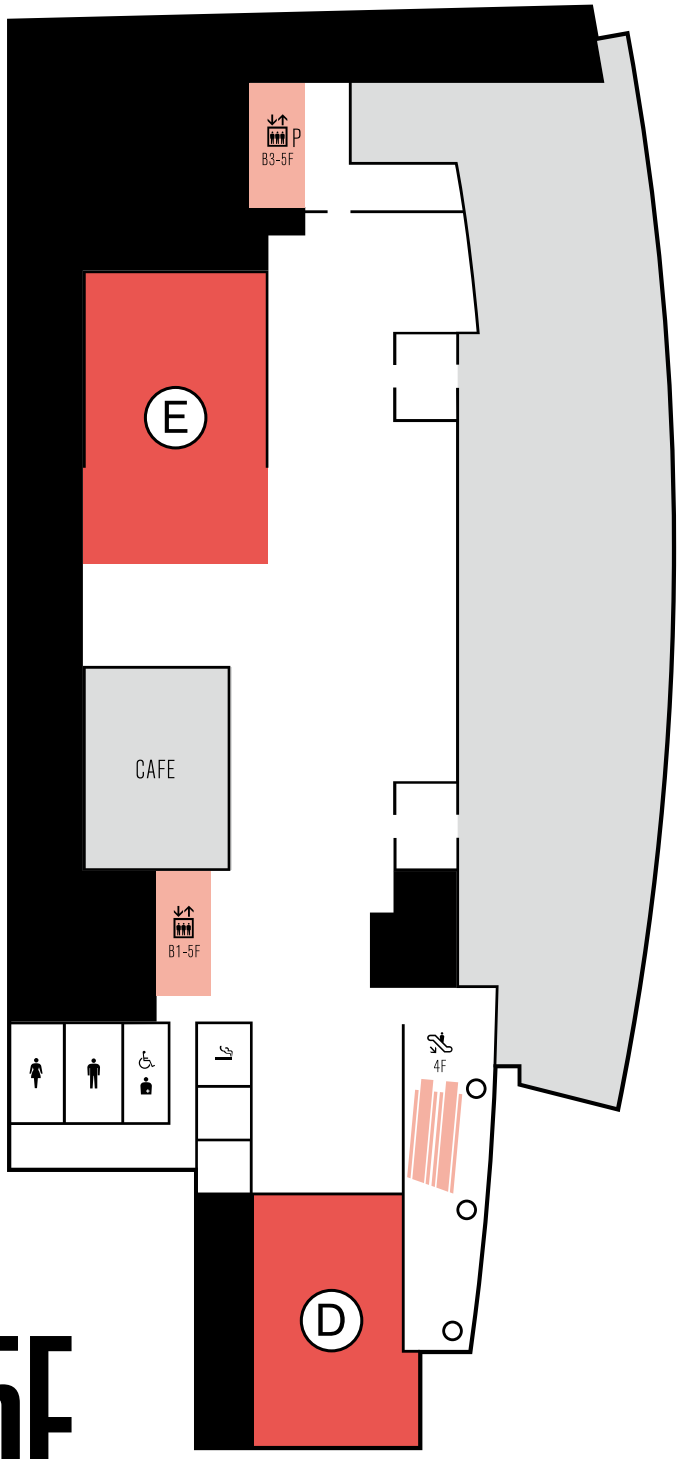
後援

JST

MAP



4F



5F

PROGRAM

DAY 1 Sept. 24

10:00-10:30 オープニングセッション 4F Ⓐ Ⓑ

10:30-11:30 基調講演 4F Ⓐ Ⓑ
Envision, Embody and inspire
石井裕

11:30-12:45 基調セッション 4F Ⓐ Ⓑ
新領域を生み出す概念形成の力とその実行
石井裕｜酒井敏｜石田かおり｜田崎有城｜山本哲士｜岩井睦雄

14:00-15:15 脱炭素･気候変動時代を生きる技術と金融 4F Ⓐ
松下祥子｜瀬名波出｜西田宏平｜小野塚惠美｜見宮美早

生物多様性と人々の暮らしの共生 4F Ⓑ
徳地直子｜揚妻直樹｜山口未花子｜中西もも｜福永真弓

サイエンススタートアップが成長するエコシステムを描くには 4F Ⓒ
中村貴裕｜橋本舜｜蛭間芳樹｜伊藤毅｜白坂成功｜辻本将晴

エッセンスセッション 5F Ⓓ
Academic Innovationと出会う未知の未来 人と生命の力
砂川玄志郎｜冨田秀一郎｜丸山美帆子｜小島伸彦｜大黒達也｜細田千尋

ウェルビーイング社会の解像度を高めるための視点 5F Ⓔ
上田洋平｜中野民夫｜松田法子｜中間真一｜小澤いぶき

15:45-17:00 宇宙建築と月面生活のある未来 4F Ⓐ
石田かおり｜佐藤達保｜佐野智｜佐藤将史｜仲隆介

新たなイノベーションを生むための先端研究の人材戦略 4F Ⓑ
上原与志一｜諏訪正樹｜稲垣正祥｜加茂倫明｜三浦英雄

大学発スタートアップの価値を活かす企業との共創 4F Ⓒ
及部智仁｜藤本宏樹｜石井芳明｜越智敬之｜橋本英仁

エッセンスセッション 5F Ⓓ
Academic Innovationと出会う未知の未来 気候変動と生態系
松下祥子｜瀬名波出｜徳地直子｜揚妻直樹｜and more

エコノミクスデザインセッション 5F Ⓔ
エビデンス時代の経済学の社会実装
宮本弘暁｜牧野百恵｜尾崎大輔｜安田洋祐

独演会（特別レクチャー） 4F 会議室A
新たな〈資本経済〉と場所 知的資本としての概念経済
山本哲士

17:30-18:45 科学と技術と社会がつながるSINIC理論と共に問う未来 4F Ⓐ
中間真一｜塩瀬隆之｜砂川玄志郎｜福永真弓｜大黒達也

人文知の社会実装と文化資本の力 4F Ⓑ
岩井睦雄｜山本哲士｜尾崎勝吉｜大室悦賀

大学発スタートアップの成長のための経営人材との連携 4F Ⓒ
真尾淑子｜草野秀樹｜中嶋淳｜鈴木健吾｜北川拓也

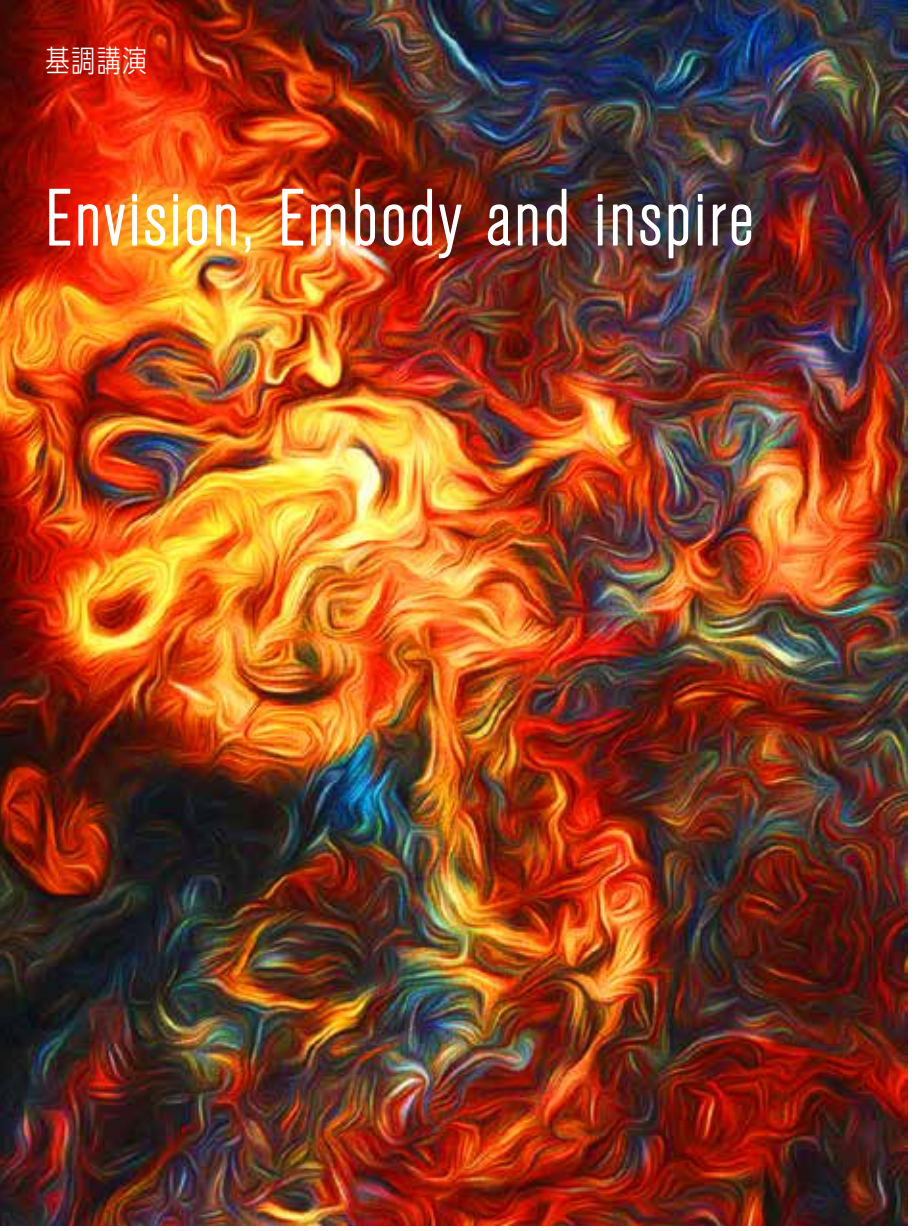
エッセンスセッション 4F Ⓓ
Academic Innovationと出会う未知の未来 脳･コンピューティング
牛久祥孝｜石津智大｜畑田裕二｜岩澤秀樹｜金井良太

東大URAセッション 5F Ⓔ
東大URAと紐解く研究知の最前線
橘省吾｜石川麻乃｜馬場良子｜中西もも｜清水修

STORIUM特別セッション 4F 会議室A
CVC･VC･金融機関向けアカデミアスタートアップ共創ピッチ
西田宏平｜高倉葉太｜中島隆太｜田崎有城｜鹿内学

基調講演

Envision, Embody and inspire



未だ誰もやったことがないことを描き、具体化し、実現するにはどのように考え、振る舞い、動くことが求められるのか。エッセンスフォーラム2024の基調講演には、MITメディアラボ副所長の石井裕教授に特別来日いただき、その活動と視点についてお話しいただきます。フォーラム全体の基盤となるセッションとして、2日間を密度高く過ごしてもらうための視点を得る時間です。

Speakers

4F Ⓐ Ⓑ

石井裕

マサチューセッツ工科大学(MIT)教授 /
メディアラボ 副所長

マサチューセッツ工科大学(MIT)教授、メディアラボ副所長。NTTヒューマンインタフェース研究所を経て、95年にMITメディアラボへ。手で直接操作できる物理的なモノを使い、直感的にデジタル情報を操作する「タンジブル・インターフェース」を研究している。2001年にMITよりテニュア(終身在職権)を授与。06年にCHIアカデミーを受賞、19年には、SIGCHI Life Time Research Award(生涯研究賞)を受賞

10:30-11:30 DAY 1 Sept. 24

基調セッション

新領域を生み出す
概念形成の力とその実行

新領域を生み出すためのスタート地点として、概念形成の力がどのように活用され、また実行されるのか。基調講演に続き、MITメディアラボ副所長の石井裕さんに加えて、独立哲学者として資生堂の文化資本政策など多くの企業と共に取り組んできた文化科学高等研究院ジェネラルディレクターの山本哲士さんに加わってもらい、さらに京都大学「変人講座」を主催されてきた酒井敏さん、アーティストにして起業家の田崎有城さん、宇宙美容の哲学を構築する石田かおりさんと共に、超学祭的な思考の場にダイブします。2日間のスタートを切り始める、深層を深掘りする時間です。

11:30-12:45　　DAY 1　　Sept. 24

Speakers　　4F Ⓐ Ⓑ

石井裕

マサチューセッツ工科大学(MIT)教授 / メディアラボ 副所長

マサチューセッツ工科大学(MIT)教授、メディアラボ副所長。NTTヒューマンインタフェース研究所を経て、95年にMITメディアラボへ。手で直接操作できる物理的なモノを使い、直感的にデジタル情報を操作する「タンジブル・インターフェース」を研究している。2001年にMITよりテニュア(終身在職権)を授与。06年にCHIアカデミーを受賞、19年には、SIGCHI Life Time Research Award (生涯研究賞)を受賞

酒井敏

京都大学名誉教授 / 静岡県立大学副学長

2023年3月まで京都大学人間・環境学研究科教授。現在は静岡県立大学グローバル地域センター特任教授、副学長。理学博士。専門は地球流体力学。1980年、京都大学理学部卒業。1981年、京都大学大学院理学研究科修士課程中途退学。中退後に助手として採用され、以来、京都大学に40年在籍。大気や海洋の力学的構造の研究のほか、フラクタル構造を応用した日除けを開発するなど、多様な研究を展開している。京都大学の未来に危機感を抱き「京大変人講座」を開講。著書に『京大的アホがなぜ必要か――カオスな世界の生存戦略』『都市を冷やすフラクタル日除け』『野蛮な大学論』、共著に『京大変人講座』『もっと! 京大変人講座』などがある。

石田かおり

駒沢女子大学人文学部 教授

博士(被服環境学)・駒沢女子大学人文学部准教授・資生堂客員研究員。現在の専門は哲学的化粧論・身体文化論。1964年生まれ。横浜市立大学文理学部文科卒業、お茶の水女子大学大学院修士課程修了、同大学院博士課程単位取得。この間一貫して西洋哲学(現象学/フッサール)を研究。1992年株式会社資生堂入社、化粧文化研究を開始。学習院女子大学・日本女子大学・早稲田大学にて非常勤講師を経て、2000年度より駒沢女子大学専任教員と資生堂客員研究員に就任

田崎有城

N-ARK(ナーク)代表取締役 / 株式会社エッセンス取締役

N-ARK(ナーク)代表。ディープテックスタートアップと並走しながらファイナンス視点も含めた総合的なハンズオン支援を行うクリエイティブファームKANDO代表。リアルテックファンドメンバーとしても多数のテックベンチャーを支援する。実績としてサイボーグベンチャー「MELTIN」では、国内外でのモメンタムづくりに貢献し、シリーズBにおいて20.2億円調達。パーソナルモビリティ「WHILL」MaaS事業CES展示、HRテック「ZENKIGEN」事業コンセプトリードなど。2021年に先端研究者のロングインタビューメディア「esse-sense | エッセンス」共同創業。同年、気候変動に対応する海上建築スタートアップ「N-ARK | ナーク」創業。

山本哲士

独立哲学者 / 文化科学高等研究院 ジェネラル・ディレクター

1948年 福井県生まれ。東京都立大学人文科学研究科博士課程修了。1975年よりメヒコCIDOCに遊学。元信州大学教授、東京藝術大学客員教授、文化科学高等研究院ジェネラル・ディレクター、日本ホスピタリティ・ビジネス会議ジェネラル・ディレクター、国際ホスピタリティ研究センタージェネラル・ディレクター。
活動 | ホスピタリティビジネス・コンサルタント、場所環境設計スイス国際学術財団INTEHL ジェネラル・ディレクター。『月刊ベイスターズ』にて「哲教授のベイスターズ応援セミナー」を1996年より連載。『季刊 iichiko』編集・研究ディレクター。

コメント

岩井睦雄

JT(日本たばこ産業株式会社)取締役会長 / 経済同友会 代表理事

1983年、東京大学経済学部卒業、日本専売公社(現・日本たばこ産業株式会社)入社。人事部、経営企画部、銀行研修(富士銀行ロンドン支店)を経て、経営企画部にて、ビジョン策定、中期計画、組織文化変革、コントローラー、ビジネス・ディベロップメントなどを経験。一般社団法人日本アスペン研究所監事、一般社団法人ダイアログ・ジャパン・ソサイエティー理事なども務める。

脱炭素・気候変動時代を生きる技術と金融

脱炭素・気候変動への対応が求められる中、その基盤となる技術を生み出す研究知と企業、そして金融はどのように連携を取れるのか。本セッションでは、複数の研究者・アカデミアスタートアップの事例を紹介しながら、テーマ型のパネルディスカッションによる異なる立場の研究者・実践者との対話を通じて意見を交え、その現状と可能性を共有していきます。

松下祥子

東京工業大学物質理工学院 准教授

1996年東京大学工学部卒業、2000年東京大学大学院工学系研究科 応用化学専攻 博士後期課程修了。東京大学で藤嶋昭教授の指導のもと自己組織化ナノ粒子構造の作製と応用を研究。2001年、理化学研究所にて國武豊喜教授グループにてポスドク研究員となり、研究対象をフォトニック結晶へと広げた。日本大学講師、助教授を経て、2010年より東京工業大学物質理工学院材料系准教授に就任。半導体増感型熱利用発電の研究に取り組んでいる。

瀬名波出

琉球大学工学部 教授

1967年沖縄県生まれ。1991年琉球大学工学部エネルギー機械工学科卒。1993年同大学大学院工学研究科機械工学専攻修了後、同大学工学部助手に採用。2001年名古屋大学大学院工学研究科工学博士取得。2006年琉球大学工学部准教授、2018年琉球大学工学部教授に就任。2009年から海洋バイオマスを利用したCO2削減・利活用研究に着手。広く学外の研究機関と協働して、沖縄の産業にも貢献できるよう、海ブドウやモズク等といった海藻の早期育成の研究を推進している。

西田宏平

株式会社TOWING 代表取締役CEO

1993年12月生まれ。滋賀県信楽町出身。名古屋大学大学院環境学研究科修了。大手自動車部品メーカーに就職した後、少年時代に食べていた畑直送のフレッシュな作物を地球でも宇宙でも食べられる未来を創るため2020年2月に株式会社TOWINGを弟と創業。在学時に学んだ人工土壌技術を活用した研究開発やコンサルティング、栽培システムの販売等の事業を行う。内閣府主催宇宙ビジネスコンテストS-Booster2019ファイナリスト。

小野塚惠美

一般社団法人科学と金融による
未来創造イニシアティブ 代表理事

JPモルガン(1998-2000)、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント(2000-2020)、カタリスト投資顧問(2020-2022)に勤務。うち20年以上は資産運用に携わり、3つの部門(運用、営業、管理)を全てを経験。2012年以降、ESG分野での専門性を培い、機関投資家としてESGリサーチ、投資先上場企業との対話、議決権行使を中心としたスチュワードシップ活動を推進。直近ではアクティビストファンドの経営者として、日本の上場企業のガバナンス向上、資本市場の高度化、最終受益者への啓発に注力。金融庁サステナブルファイナンス有識者会議、経産省非財務情報の開示指針研究会に参画。日本を代表する機関投資家団体として世界から認知されるジャパン・スチュワードシップ・イニシアティブ(JSI)で運営委員長を務める。東京理科大学大学院経営学研究科技術経営(MOT)修士。

見宮美早

国際協力機構(JICA)サステナビリティ
推進特命審議役 兼
企画部サステナビリティ推進室長

1997年、JICA入団。ケニア事務所、フィリピン事務所、地球環境部、広報部などを経て現職。サステナビリティ推進室の立ち上げから、実際のサステナビリティ推進までを担う。

生物多様性と人々の暮らしの共生

生物多様性と人々の暮らしはどのように共生しうるのか。脱炭素・気候変動の先の次のトピックスとしてあがる「人と自然の共生」に向けて、最前線で知を積み上げる研究者の知見を元にその現在地での理解と知見を共有していきます。本セッションでは、複数の研究者の研究から得られた知と視点を紹介しながら、テーマ型のパネルディスカッションを通じて我々が知るべき視点を獲得していきます。

徳地直子

京都大学フィールド科学教育研究センター
教授

京都大学農学部卒業、同林学科森林生態学研究室助手、同附属演習林助教授を経て、改組により京都大学フィールド科学教育研究センター准教授。森林生態系における大気-植物-土壌間での物質（特に窒素）の循環に関する研究。日本及びタイ・シベリア・アラスカなどの森林調査。近年は、森林の施業方法が森林環境に与える影響や、里山でのタケの侵入の影響などについても調査している。

揚妻直樹

北海道大学北方生物圏フィールド科学
センター 教授

宮城県・仙台市出身。北海道大学北方生物圏フィールド科学センター副センター長。1989年より森とヤクシマザルを、1998年よりヤクシカの研究を始める。北海道大学に勤務しはじめた2000年以降は、北海道の野生動物も研究対象にしている。屋久島と北海道を主なフィールドに哺乳類の生態を森林環境との関わり合いから研究し、生態の適応の解明を目指している。著書に「霊長類生態学」（杉山幸丸編著｜京都大学学術出版会）、「世界遺産屋久島」（大澤雅彦・田川日出夫・山極寿一編著｜朝倉書店）、「日本列島の野生生物と人」（池谷和信編｜世界思想社）などがある。

山口未花子

北海道大学文学研究院 教授

北海道大学文学研究院准教授。1976年京都府出身。奈良教育大学で動物生態学を学んだ後、北海道大学大学院で文化人類学の修士号・博士号を取得。東北大学東北アジア研究センター教育研究支援者、北九州市立大学地域共生教育センター講師、岐阜大学地域科学部助教をへて2019年4月より現職。カナダ・ユーコン準州の先住民のもとに10年以上通い調査を行う。

中西もも

東京大学大学院農学生命科学研究科
准教授 / 東京大学URA One Earth Guardians

東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了、博士（農学）。Hospital for Sick Children（トロント）Post-doctoral fellow、科学技術振興機構 産学連携展開部 調査員を経て、2016年より東京大学 大学院農学生命科学研究科 特任助教、2017年12月より同 特任講師、2021年4月より現職。東京大学One Earth Guardians育成プログラムにおいて、立ち上げ当初よりアドミニストレーターを務める。

福永真弓

東京大学社会文化環境学専攻准教授

東京大学社会文化環境学専攻准教授。2001年津田塾大学大学院国際関係論専攻修士課程修了、2007年日本学術振興会特別研究員、2008年東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻博士課程修了、同年立教大学社会学部助教、2011年大阪府立大学21世紀科学研究機構エコサイエンス研究所准教授、2012年大阪府立大学現代システム科学域准教授を経て、2015年より現職。日本社会学会若手奨励賞（論文の部）、著書に「サケをつくる人びと 水産増殖と資源再生」（東京大学出版会）などがある。

サイエンススタートアップが成長するエコシステムを描くには

科学的な知見を中心軸に置いた新たなスタートアップは、誕生よりも成長が難しいことが昨年のエッセンスフォーラムの冒頭でも取り上げられました。では、どのようにしてその成長を支えるエコシステムを構築すれば良いのか。本セッションでは、複数の実際にスケールアップを成し遂げたスタートアップの経営層をお招きし、またエコシステム構築の研究知と実戦知を交えながら、その対話を通じて取り得る可能性を探究していきます。

14:00-15:15　DAY 1　Sept. 24

中村貴裕

株式会社Midtown 代表取締役CEO

高校生の頃に読んだ科学雑誌Newtonをきっかけに宇宙に興味を抱く。九州大学、東京大学大学院で太陽系起源の研究をした後、新卒でアクセンチュア(株)に入社し小売や製造業のSCM領域のコンサルティングに従事。その後(株)リクルートに転じ、新規事業開発室にて自ら企画・立案した事業の立ち上げを複数経験。2015年より(株)ispaceにて、取締役COOとしてビジネス全般を統括。事業開発、政府リレーション、組織開発やHAKUTO、HAKUTO-Rの立上げと推進を行い、2017年に日本では過去最高額となる103.5億円のseriesA資金調達を実施。社員2名から社員200名規模へのスケールアップを経験。2022年7月に宇宙×気候変動×生物多様性をキーワードに地球規模の社会課題解決を目指して、株式会社Midtownを創業。複数のスタートアップ企業のCXOやアドバイザー、月面産業ビジョン協議会の座長代理を兼務。

橋本舜

ベースフード株式会社 代表取締役

1988年、大阪府出身。2012年、東京大学教養学部卒業後、DeNAに入社。ゲームのプロデューサー、自動運転などオートモーティブ関連の新規事業を担当。社会課題と向き合う中、健康維持・病気予防の個人および社会における重要性を強く認識する。16年に「主食をイノベーションし、健康をあたりまえに。」をミッションとするベースフードを設立し 、完全栄養食「BASE PASTA」を開発。その後「BASE BREAD」「BASE Cookies」の販売も開始し、さらなる新商品の開発、商品の普及に尽力している。22年11月15日に上場

蛭間芳樹

日本政策投資銀行業務企画部
イノベーション推進室 /
株式会社SkyDrive 社外取締役

2009年、株式会社日本政策投資銀行入行。営業部門、サステナビリティ企画部、経営企画部などを経て、2021年より現職。東京大学生産技術研究所都市基盤安全工学国際研究センター協力研究員、スタンフォード大学大学院ソーシャルイノベーション・プロフェッショナルコース修了。国連、世銀、世界経済フォーラム、世界防災フォーラム、APEC、内閣府防災、国交省、経産省、環境省など内外専門委員会への参画、ビッグイシュー基金理事、ダイバーシティサッカー協会理事など活動は様々。著書 |『責任ある金融』、『ホームレス・ワールドカップ日本代表のあきらめない力』、『日本最悪のシナリオ』、『気候変動リスクとどう向き合うか』など。公益財団法人日本ユースリーダー協会 第4回ユースリーダー賞受賞、世界経済フォーラム グローバル・リスク研究メンバー兼ヤング・グローバルリーダー2015(2020年からYGL Local Championsメンバー)。

伊藤毅

Beyond Next Ventures株式会社 CEO /
Managing Partner

2003年4月にジャフコ(現ジャフコ グループ)に入社。Spiberやサイバーダインをはじめとする多数の大学発技術シーズの事業化支援・投資活動をリード。2014年8月、研究成果の商業化によりアカデミアに資金が循環する社会の実現のため、当社を創業。創業初期からの資金提供に加え、成長を底上げするエコシステムの構築に従事。出資先の複数の社外取締役および名古屋大学客員准教授・広島大学客員教授を兼務。内閣府・各省庁のスタートアップ関連委員メンバーや審査員等を歴任。東京工業大学大学院 理工学研究科化学工学専攻修了

白坂成功

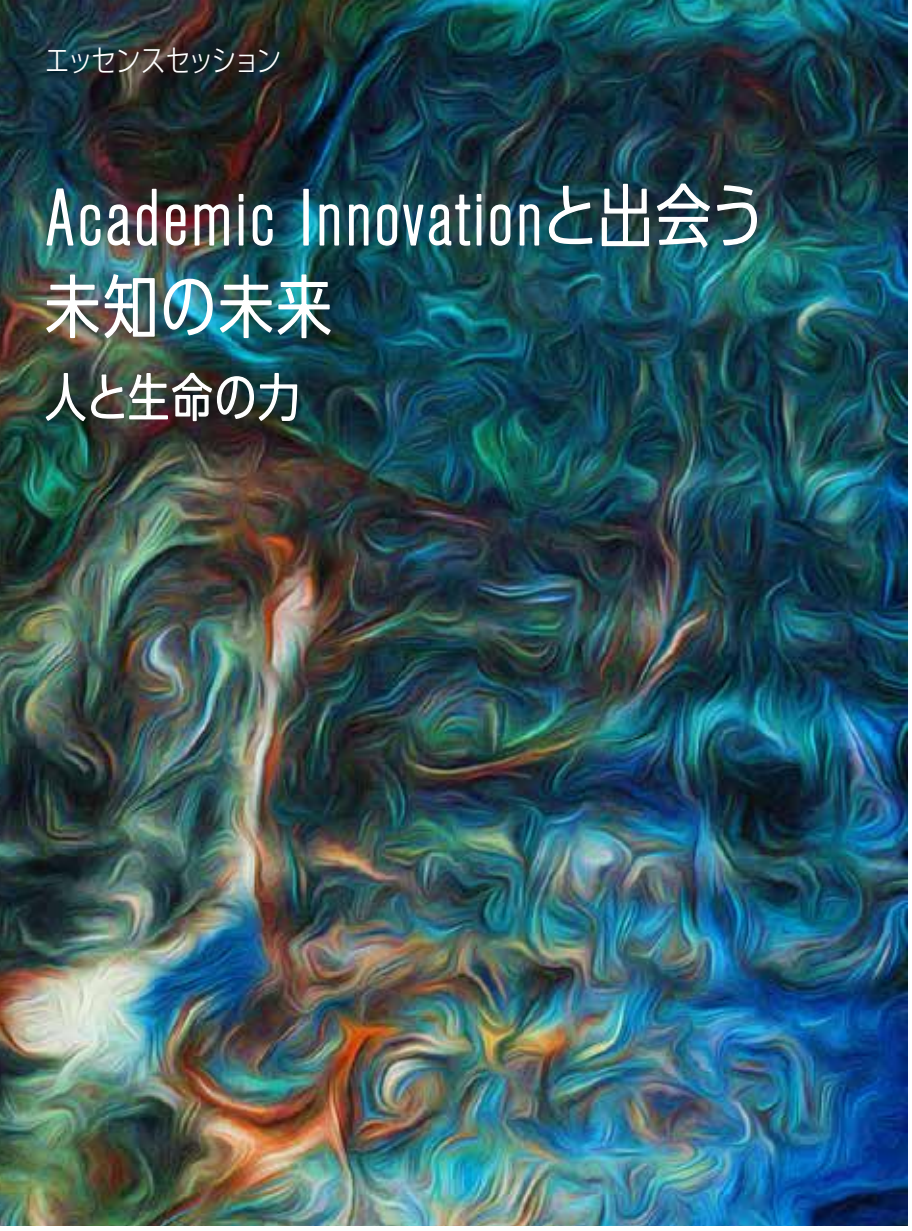
慶應義塾大学大学院システムデザイン・
マネジメント研究科委員長 教授

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授。東京大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻修士課程修了後、三菱電機株式会社にて宇宙開発に従事。技術試験衛星VII型(ETS-VII)、宇宙ステーション補給機(HTV)等の開発に参加。特にHTVの開発では初期設計から初号機ミッション完了まで携わる。途中1年8ヶ月間、欧州の人工衛星開発メーカに駐在し、欧州宇宙機関(ESA)向けの開発に参加。「こうのとり」(HTV: H-II TransferVehicle)開発では多くの賞を受賞。内閣府革新的研究開発推進プログラム(ImPACT)のプログラムマネージャーとしてオンデマンド型小型合成開口レーダ(SAR)衛星を開発。2004年度より慶應義塾大学にてシステムズエンジニアリングの教鞭をとる。

辻本将晴

東京工業大学 環境・社会理工学院
技術経営専門職学位課程 教授

慶應義塾大学総合政策学部卒業、同大学院政策・メディア研究科後期博士課程修了。博士(政策・メディア)。東京大学大学院工学系研究科助手、芝浦工業大学大学院工学マネジメント研究科専任講師、法政大学大学院イノベーションマネジメント研究科准教授を経て2010年4月東京工業大学大学院イノベーションマネジメント研究科准教授。20年4月より現職。2014年TUHH Guest Professor、2019年ETH Zurich Academic Guest (Chair of Entrepreneurship)。2022年より東京工業大学研究・産学連携本部 副本部長(起業活動支援担当)、東京工業大学イノベーションデザイン機構 機構長を兼務。Greater Tokyo Innovation Ecosystem(GTIE)プログラム代表。



Academic Innovationと出会う 未知の未来

人と生命の力

「こんな知が存在するのか!」。エッセンスでの取材を通じて得たこの驚きを共有するための、先端研究に直接出会うピッチプレゼンテーションのセッションを今年も用意しました。エッセンスセッションでは、エッセンスの記事群から分野を超えて衝撃的な驚きを生み出す研究者にご登壇いただき、その研究の現在と未来についてお話を伺います。昨年に続く、その衝撃にぜひ出会ってみてください。

14:00-15:15　DAY 1　Sept. 24

砂川玄志郎

国立研究開発法人理化学研究所生命機能科学研究センター 冬眠生物学研究チーム チームリーダー / 小児科医

国立研究開発法人理化学研究所 生命機能科学研究センター 冬眠生物学研究チーム チームリーダー / 小児科医 福岡県生まれ。2001年より小児科医として救急医療・麻酔・集中治療に従事。京都大学大学院医学研究科にて博士(医学)取得。大阪赤十字病院、国立成育医療センターで医師として勤務。2006年から「なぜ動物が眠るのか」という問いに答えるため、生理学・遺伝学・情報工学を組み合わせて個体レベルのシステム生物学を実践。2015年から理化学研究所 網膜再生医療研究開発プロジェクトでマウスを用いた冬眠研究を開始。2022年から研究室を主宰。

冨田秀一郎

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門 グループ長

1965年福岡生まれ。東京大学大学院農学系研究科博士(農学)。国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門絹糸昆虫高度利用研究領域カイコ基盤技術開発グループグループ長。筑波大学グローバル教育院ライフイノベーション学位プログラム教授(協働大学院)。遺伝子組換えカイコを用いた製品開発や産業化に従事する一方、主にカイコを材料に、節足動物の付属肢の発生と進化の研究を行っている。

丸山美帆子

大阪大学大学院工学研究科 教授

栃木県出身。東北大学理学部 地球惑星物質科学科卒業後、同大学 大学院理学研究科 地学専攻博士課程修了。東北大学 大学院理学研究科 日本学術振興会特別研究員(DC1)を振り出しに、大阪大学工学研究科 特任研究員・特任助教、北海道大学 低温科学研究所研究員、大阪大学レーザー科学研究所 特任研究員、日本学術振興会特別研究員(RPD)、京都府立大学生命科学研究科 特任講師を経て2020年4月から現職。大阪サクヤヒメSDGs研究会 働き方部会 メンバー、日本結晶成長学会 国際交流委員、文部科学省科学技術・学術政策研究所 科学技術専門調査員、大阪大学大学院工学研究科男女共同参画WGメンバー。2018年に第11回資生堂 女性研究者サイエンスグラントを受賞。

小島伸彦

横浜市立大学大学院生命ナノシステム科学研究科再生生物学研究室 准教授

1974年大阪府生まれ。小学校から高校までの12年間を滋賀県高島郡(現・高島市)で過ごす。大阪大学で工学修士、東京大学で理学博士の学位を取得。神奈川科学技術アカデミー宮島「幹細胞」プロジェクト研究員、東京大学生産技術研究所助手・特任助教、UCLA医学部を経て、2013年より横浜市立大学に准教授として着任。「臓器設計学」の確立を目指し、細胞ベースの人工臓器の開発に取り組んでいる。2016年に攻殻機動隊REALIZE Project the Awardの攻殻×コンテスト部門において最優秀賞を獲得。同年、第43回日本臓器保存生物医学会学術集会で会長賞を受賞。2020年にはクラウドファンディングを利用した「液体肝臓」開発プロジェクトを立ち上げ、本格的な研究を開始し、2021年第4回メドテックグランプリKOBEにおいてロート賞を受賞、異能vationプログラム2021年度「ジェネレーションアワード」部門ノミネートに他薦で選出。

大黒達也

東京大学大学院 情報理工学系研究科・次世代知能科学研究センター 准教授

1986年、青森県八戸市生まれ。2016年、東京大学大学院医学系研究科内科学専攻医学博士課程を修了。オックスフォード大学医科学部実験心理学部、マックスプランク研究所神経心理学部、ケンブリッジ大学教育神経科学研究所の研究員を経て、2020年4月より現職。音楽や言語がどのように学習されるのかについて、神経科学と計算論的手法を用い、領域横断的に研究。神経生理データから脳の「創造性」をモデル化し、創造性の起源とその発達的過程を探っている。また、それらの研究結果をもとに新たな音楽理論を構築し、現代音楽の制作にも取り組んでいる。著書に『芸術的創造は脳のどこから生まれるか?』『AI時代に「自分の才能を伸ばす」ということ』『音楽する脳 天才たちの創造性と超絶技巧の科学』、監修本に『GOOD VIBRATIONS 最高の体調をつくる音楽の活用法』などがある。

細田千尋

東北大学大学院情報科学研究科及び東北大学加齢医学研究所准教授

2004年、東京女子大学文理学部英米文学科卒業。2010年、東京医科歯科大学大学院医歯学総合博士課程修了。博士(医学)。同年に国立精神神経医療研究センター流動研究員2012年にATR(株式会社 国際電気通信基礎技術研究所)専任研究員、2014年から東京大学大学院総合文化研究科特任研究員やJST(科学技術振興機構)さきがけ専任研究員などを得て、2022年4月から現在まで東北大学大学院情報科学研究科及び東北大学加齢医学研究所准教授。破壊的イノベーションの創出を目指した大胆な発想に基づく挑戦的な研究開発を進めるJSTの「ムーンショット型研究開発事業　目標9」のプロジェクトマネージャーを務める。仙台市教育局「学びの連携推進室」委員。

ウェルビーイング社会の解像度を高めるための視点

ウェルビーイング社会とは、一体どの視点から問えば良いのか。SDGsによる格差解消の先の次のトピックスとしてあがる「ウェルビーイング社会」に向けて、そのおくべき視点を問うために各地で人と現場と触れ続ける最前線の研究者の知見を元に次のテーマを得ていくためのセッションです。本セッションでは、複数の研究者の研究から得られた知と視点を紹介しながら、テーマ型のパネルディスカッションを通じて我々が知るべき視点を獲得していきます。

14:00-15:15　DAY 1　Sept. 24

上田洋平

滋賀県立大学地域共生センター 講師

1976年京都府生まれ。滋賀県在住。滋賀県立大学大学院人間文化学研究科地域文化学専攻博士課程単位取得退学。専門は地域文化学、地域学。風土に根ざした暮らしと文化に関する研究と実践に取り組む一方、地域づくりを担う人材の育成や地域と連携した「共育プログラム」の開発・運営にも従事するほか、「まちづくりのホームドクター(かかりつけ医)」として地域に関わるあらゆる分野の相談に乗る。地域住民が自らの五感体験を素材として「環世界」的な地域像(ふるさと絵屏風)を描き語る多世代共創型まちづくりの手法「心象図法」を開発。同手法は広く各地に普及しつつある。著書に『場づくりから始める地域づくり(共著・学芸出版、2021年)』ほか。

中野民夫

東京工業大学 名誉教授

東京工業大学名誉教授、ファシリテーター、屋久島本然庵主宰。1957年生まれ。広告会社に30年、同志社と東京工業大学に計11年勤め、2023年春定年退職しフリーランスに。1990年前後に米国留学し組織開発やワークショップを学ぶ。以降、ファシリテーション講座や対話を育むワークショップや授業を実践。60歳前後から歌と絵をたしなむ。主著『ワークショップ』『学び合う場のつくり方』(岩波書店)

松田法子

京都府立大学大学院 生命環境科学研究科
准教授

京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 准教授。建築史・都市史。近年は建築や集住体のフィールドワークを、地形・地質・水系・地域史などを複合した広域なエリアスタディとして取り組み、これを領域史として提起する。現在の研究テーマは、「地-質からみる都市と集落」「汀の人文史」「生環境構築史」など。単著に『絵はがきの別府』(左右社、2012)、共編著に『危機と都市 —Along the Water』(同、2017)、『熱海温泉誌』(熱海市、2017)など。芸術・建築系プロジェクトにも積極的に協力する。

中間真一

株式会社ヒューマンルネッサンス研究所
エグゼクティブフェロー

1959年生まれ。慶応義塾大学工学部卒業、埼玉大学大学院(経済学)修了。株式会社ヒューマンルネッサンス研究所の創設メンバーとして参画し、オムロン創業者らによる未来予測理論「SINIC理論」を活かした未来社会研究に従事して現在に至る。「自動」「自律」「自然」をテーマとした人とテクノロジーのインタラクション、「遊」「学」「働」の未来展望など、創設以来Do tankを目指し、フィールドで未来予兆を探索し、「てら子屋」など未来の担い手が育つフィールドづくりも手がける。共著書に『スウェーデン—自律社会を生きる人びと—』(早稲田大学出版部)、『北欧学のフロンティア』(ミネルヴァ書房)など。

小澤いぶき

一般社団法人Everybeing共同代表 /
児童精神科医

児童精神科医・精神科専門医 / 一般社団法人Everybeing共同代表 / こども家庭庁アドバイザー
臨床研修医・精神科臨床医としての経験後、東京医師アカデミーにて児童精神科の研修を積み、東京都立小児総合医療センター、児童相談所、精神保健福祉センター等にて子どもの心のケアに携わる。その後、東京大学先端科学技術研究センター特任研究員を経て、認定NPO法人PIECESを創業。Fish Family Foundation JWLIフェロー。2017年、ザルツブルグカンファレンスにて、子どものウェルビーイングのためのザルツブルグステイトメント作成に参画。日本及び中東での子どものmental health and wellbeingのプロジェクトに関わる。2022年7月よりこども家庭庁設立準備室(現・こども家庭庁)アドバイザーを兼務。
社会の立ち上がるプロセスに全ての存在の尊厳が映る大切さを実感し、全ての存在の尊厳へのまなざしがある社会に向けて一般社団法人Everybeingを立ち上げ活動している。

宇宙建築と月面生活のある未来

宇宙に進出する時代において、私たちはどのようなトピックスと遭遇しうるのか。昨年のispaceの上場に続き、今年の6月には持続可能な宇宙環境を目指しスペースデブリ(宇宙ごみ)事業に取り組むアストロスケールホールディングスが東証グロース市場に上場しました。本セッションでは、日本の強みとして期待される宇宙生活事業において、月面生活に焦点を置き、哲学、建築、倫理、ビジネスの複数の視点からその可能性を問うテーマ型のパネルディスカッションを通じて新たなトピックスを獲得していきます。

石田かおり

駒沢女子大学人文学部教授

博士(被服環境学)・駒沢女子大学人文学部准教授・資生堂客員研究員。現在の専門は哲学的化粧論・身体文化論。1964年生まれ。横浜市立大学文理学部文科卒業、お茶の水女子大学大学院修士課程修了、同大学院博士課程単位取得。この間一貫して西洋哲学(現象学/フッサール)を研究。1992年株式会社資生堂入社、化粧文化研究を開始。学習院女子大学・日本女子大学・早稲田大学にて非常勤講師を経て、2000年度より駒沢女子大学専任教員と資生堂客員研究員に就任

佐藤達保

竹中工務店 宇宙建築タスクフォース(TSX)
サブリーダー / 大阪本店設計部グループ長

1980年 大阪生まれ、大阪育ち
2006年 株式会社竹中工務店入社、現在 大阪本店設計部第2設計部門グループ長
2023年 宇宙建築タスクフォース設立、サブリーダー
新たな国際宇宙探査シナリオはいよいよ月・火星探査へ。世界中の国や宇宙機関が民間企業との協力を加速し始めるなか、2030年代の月面基地建設着手を目標に竹中工務店宇宙建築タスクフォース(Takanaka Space eXploration=TSX)を設立。地上でも宇宙でも、衣食住のある場所には必ず建築の専門家としてのスキルセットやマネジメントが活かせることを信念に、設計施工と研究所の技術を統合し、宇宙での総合設計施工サービスとQOLの向上を目指す。

佐野智

IISE(国際社会経済研究所)ソートリーダーシップ推進部プロフェッショナル

2002年JAXA入社。入社以来、有人宇宙技術部門にて食品・製薬業界等と連携した宇宙創薬ミッションのほか、宇宙での睡眠、トイレ、鍼灸、お酒などの生活系研究会を推進。2013-2014年は経営企画部にて、はやぶさ2やH3プロジェクト立上げなどを含むJAXA全予算の概算要求・省庁折衝に従事。内閣府科学技術イノベーション部局を経て、現職。博士(理学)。

佐藤将史

Beyond Next Ventures株式会社 /
一般社団法人SPACETIDE 理事兼COO

2003年より野村総合研究所にて、イノベーション領域を中心に政策立案から企業戦略まで幅広くコンサルティング業務に従事。2019年ispaceに参画、日本初の宇宙スタートアップIPOの後、現職。Beyond Next Venturesにて宇宙領域アドバイザー及びスタートアップエコシステム整備に従事。
並行して、一般社団法人SPACETIDEの共同設立者・理事兼COOとして、2015年より日本初の民間発宇宙ビジネスカンファレンス "SPACETIDE" の企画・運営を行う他、宇宙ビジネス振興の各種活動を展開している。東京大学理学部卒(地球惑星物理学)・同大学院理学系研究科修了(地球惑星科学)、カリフォルニア大学ロサンゼルス校公共政策大学院修了(公共政策学修士)。

仲隆介

京都工芸繊維大学 名誉教授 /
合同会社NAKA Lab.代表

東京理科大学工学部助手、マサチューセッツ工科大学建築学部客員研究員(フルブライター)、宮城大学助教授、京都工芸繊維大学教授等を経て、現職。建築学と経営学の融合分野において、ワークプレイスをテーマの研究を行っており、同時に、企業や自治体と次世代のワークプレイスを模索する活動を展開している。新世代クリエイティブオフィス研究センター長、日経ニューオフィス賞審査委員、JFMA賞審査委員、長崎新県庁舎、西予市役所など多数の自治体アドバイザー、厚木市、北区他庁舎建築審査員などを務める。著書(共著)に、「変化するオフィス(丸善)」「オフィスの夢(彰国社)」「Post Office(TOTO出版)」「Collaborative Design and Learning: Competence Building for Innovation(PRAEGER)」などがある。

新たなイノベーションを生むための先端研究の人材戦略

企業内研究所が果たせる役割と、その実行に必要な人材戦略とは。研究知を社会で活かすために、企業における研究知の活用が欠かせません。一方で、そのためには企業側の体制・人材戦略が求められます。この問いを深めるために、企業内でその先端研究の人材戦略に取り組むトップランナーの方々をお招きし、また大学と企業の間の人材の橋渡しを行うLabBase社代表取締役の加茂倫明にお越しいただきます。

上原与志一

三井化学株式会社研究開発本部
未来技術創生センター長

1992年三井化学株式会社入社後、国内外化学プラントのプロセス開発・工業化、次世代プロセス基盤技術開発に従事した後、2014年から経営企画部で新事業・新製品創出戦略ならびに長期経営計画策定に携わる。2017年より三井化学シンガポールR&Dセンター社長を経て、2022年4月より現職。Beyond2030年に向けた新たな価値創造に取り組んでいる。

諏訪正樹

オムロン サイニックエックス株式会社
代表取締役社長

1968年、京都府生まれ。1997年、立命館大学理工学研究科博士後期課程修了後、オムロン株式会社入社。信号処理、機械学習のアルゴリズム、3D画像計測原理、計測アルゴリズムの研究開発に従事。2018年2月、オムロンサイニックエックス株式会社代表取締役に就任。奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科、九州工業大学生命工学研究科客員教授。クラシックギター、サッカーなど多趣味。長く京都で生活してきたが、新会社立ち上げにより東京に転勤。東京に来て良かったのは「ライブやコンサートがとても多い」こと。忙しい中で時間を見つけては、音楽イベントに足を運ぶ。

稲垣正祥

京セラ株式会社 非常勤理事

静岡県出身。立教大学理学部物理学科卒。1981年、京都セラミック(株)入社。総合研究所にて、セラミック製品、シミュレーション技術の開発に従事。2005年、自動車部品開発部門にて車載関連の開発に従事。07、自動車部品開発部長に主任。13年、執行役員研究開発本部長に就任。17年より、執行役員上席 研究開発本部長

加茂倫明

LabBase 代表取締役CEO

1994年、京都府生まれ。大学教授の父を持ち数学者を目指していたが、東京大学理科二類入学後、研究領域の課題を目の当たりにする。2016年にLabBase(旧POL)創業、翌年、理系学生と企業のマッチングサービス「LabBase就職」を開始。

三浦英雄

ウィルソン・ラーニング ワールドワイド
株式会社 / 執行役員 事業開発室長(兼)
イノベーション・イネーブルメント事業統括 /
一般社団法人越境リーダーシップ 代表理事

2012年に社会的な価値創造に関する共創型実践研究「越境リーダーシップ」プロジェクトを産学連携で設立。個人の想いを起点に、既存の枠組みを"越境"し、異分野との共創関係から社会的価値創造を実現するリーダーシップ、イネーブルメント、組織文化の実践研究をアカデミア、実践者、クリエイターと共に取り組む。イノベーション・イネーブルメント事業を創設し、個人の想いを起点とした社会的価値創造の挑戦が生まれるエコシステムの実装を多数手がける。

大学発スタートアップの価値を活かす企業との共創

大学発スタートアップが創業後にその価値を発揮するためには、単独での奮闘だけでなく、既存の企業との共創が欠かせません。一方で、大学初スタートアップと既存企業の共創はどのように実現し得るのか。この問いに対し、アカデミアと企業の連携に取り組む企業側の最前線の取り組みと、その全体を支える施策のあり方、また具体的なデジタルプラットフォームの存在と活用について、異なる立場の視点と実践を伺いながら、今後求められる大学発スタートアップと企業の共創のための取り組みについて共に構想し、その理解を得ていきます。

及部智仁

東京工業大学 特任教授 /
株式会社 quantum 代表取締役社長

世界トップクラスのベンチャービルダーを目指すスタートアップ・スタジオの(株)quantumを2014年に社内カンパニー化、2016年に法人格として創業。代表取締役に就任。博報堂100%子会社化。数多くの大企業との新規事業開発、ベンチャー組成やスタートアップのハンズオン支援を経験。また、大学との産学連携にて機械学習技術を活用したサッカー×AIの研究を行い、2017年にはスポーツデータ×機械学習を専門とする(株)sports AI を創業。サッカーの戦況予測AIをデジタル広告会社に事業売却。博報堂DYホールディングスの社内起業家プログラム(Ad+Venture)や京都大学グローバル起業家教育プログラムなど数多くのアクセラレーターや社内起業プログラム等でメンター・審査員を歴任するほか、書籍『スタートアップスタジオ』(日経BP)の翻訳出版・監修など、起業家支援だけでなく社内起業家、アカデミア起業家の数を多く輩出することを目指し活動する。

藤本宏樹

住友生命保険相互会社 上席執行役員
兼新規ビジネス企画部長

1988年東京大学経済学部卒業後、住友生命保険入社。三重支社、通商産業省(現、経済産業省)出向などを経て、2005年秘書室長、2007年経営総務室長。2011年に新ブランド戦略立ち上げに携わり、2013年からブランドコミュニケーション部長。2017年に日本最大級の広告賞である「ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」において、総務大臣賞/ACC グランプリ受賞(フィルム部門Aカテゴリー)。2019年4月から現職。

石井芳明

中小企業基盤整備機構
創業・ベンチャー支援部長

1987年岡山大学法学部法学科卒業後、通商産業省(現・経済産業省)入省。中小企業・ベンチャー企業政策、産業技術政策、地域振興政策等に従事。1997年同省工業技術院国際研究協力課、2000年中小企業庁経営支援課、2003年経済産業政策局産業組織課、2006年中小企業基盤整備機構資金支援課、2007年同ファンド企画課、2008年大田区産業経済部産業振興課課長、2011年地域経済産業グループ地域経済産業政策課、2012年経済産業省 経済産業政策局 新規産業室 新規事業調整官を経て、2023年より現職。1996年カリフォルニア大学バークレー校 留学(公共政策 単位履修生)。2000年青山学院大学大学院国際政治経済学研究科卒業(国際経営学修士)。2012年早稲田大学大学院商学研究科卒業(商学博士)。

越智敬之

株式会社グランストーリー 代表取締役 CEO

兵庫県神戸市出身。阪神淡路大震災で実家が被災した際、家族の安否がわからない経験を通じて、情報インフラによるつながりの重要性を痛感。1999年、早稲田大学在学中にWEB制作会社を創業した後、2002年よりサイバーエージェントにてデジタルマーケティングやデジタルビジネスの普及発展に寄与。2013年よりAOI Pro.にて、デジタルクリエイティブ部門の戦略立案と組織再編を主導。2015年よりIDOM Inc.にて新規事業開発とオープンイノベーションの推進、次世代リーダーの採用と育成を担当。2019年、次世代リーダーによるソーシャルイノベーション支援を目的に、株式会社グランストーリーを創業。次世代リーダー「活き人」への行動変容プログラム「IGNITION」をリリースした後。2021年に次世代イノベーションを牽引するスタートアップとイノベーターのつながりを支援する共創エコシステム「STORIUM」をリリース。24年9月現在、650社が集まる国内屈指のソーシャルキャピタルとして躍進中。

橋本英仁

阪急阪神不動産開発事業本部都市
マネジメント事業部 部長 / うめきた未来
イノベーション機構 U-FINO 事業統括部長

1990年阪急電鉄(株)に入社。オフィス、マンション等の設計・現場管理に携わった後、2000年よりニュータウン彩都の開発事業において、大学発ベンチャーの支援事業、公的インキュベータの誘致に従事。
阪急電鉄に復職後、駅建築の責任者、鉄道部門の営業担当、能勢電鉄(株)への出向を経て、2017年よりうめきた2期開発計画に携わる。2022年9月うめきた未来イノベーション機構設立時から現職を兼務。2024年4月から都市活力研究所も兼務

エッセンスセッション

Academic Innovationと出会う未知の未来

気候変動と生態系

「こんな知が存在するのか!」。エッセンスでの取材を通じて得たこの驚きを共有するための、先端研究に直接出会うピッチプレゼンテーションのセッションを今年も用意しました。エッセンスセッションでは、エッセンスの記事群から分野を超えて衝撃的な驚きを生み出す研究者にご登壇いただき、その研究の現在と未来についてお話を伺います。昨年に続く、その衝撃にぜひ出会ってみてください。

15:45-17:00　DAY 1　Sept. 24

Speakers

5F D

松下祥子

東京工業大学物質理工学院 准教授

1996年東京大学工学部卒業、2000年東京大学大学院工学系研究科 応用化学専攻 博士後期課程修了。東京大学で藤嶋昭教授の指導のもと自己組織化ナノ粒子構造の作製と応用を研究。2001年、理化学研究所にて國武豊喜教授グループにてポスドク研究員となり、研究対象をフォトニック結晶へと広げた。日本大学講師、助教授を経て、2010年より東京工業大学物質理工学院材料系准教授に就任。半導体増感型熱利用発電の研究に取り組んでいる。

瀬名波出

琉球大学工学部 教授

1967年沖縄県生まれ。1991年琉球大学工学部エネルギー機械工学科卒。1993年同大学大学院工学研究科機械工学専攻修了後、同大学工学部助手に採用。2001年名古屋大学大学院工学研究科工学博士取得。2006年琉球大学工学部准教授、2018年琉球大学工学部教授に就任。2009年から海洋バイオマスを利用したCO2削減・利活用研究に着手。広く学外の研究機関と協働して、沖縄の産業にも貢献できるよう、海ブドウやモズク等といった海藻の早期育成の研究を推進している。

徳地直子

京都大学フィールド科学教育研究センター 教授

京都大学農学部卒業、同林学科森林生態学研究室助手、同附属演習林助教授を経て、改組により京都大学フィールド科学教育研究センター准教授。森林生態系における大気-植物-土壌間での物質(特に窒素)の循環に関する研究。日本及びタイ・シベリア・アラスカなどの森林調査。近年は、森林の施業方法が森林環境に与える影響や、里山でのタケの侵入の影響などについても調査している。

揚妻直樹

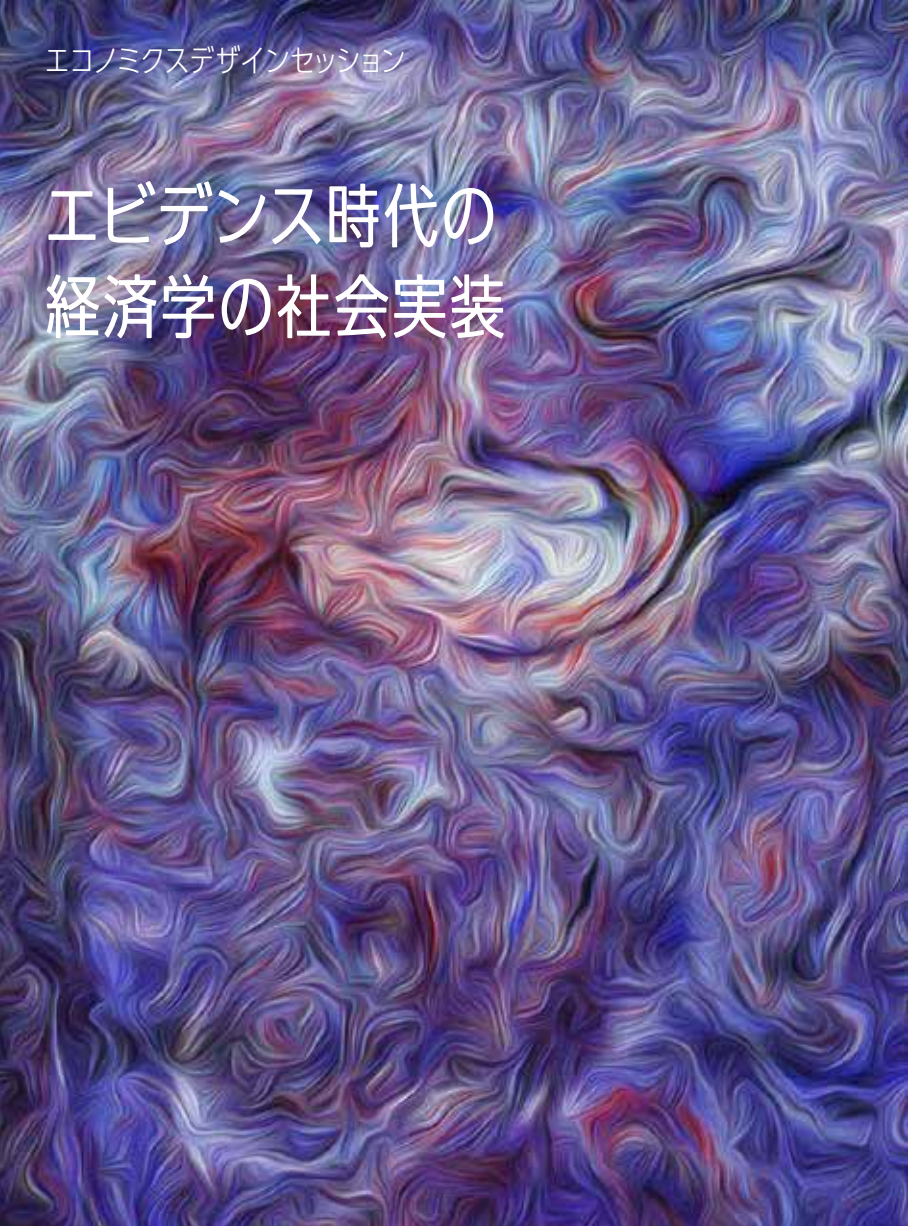
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授

宮城県・仙台市出身。北海道大学北方生物圏フィールド科学センター副センター長。1989年より森とヤクシマザルを、1998年よりヤクシカの研究を始める。北海道大学に勤務しはじめた2000年以降は、北海道の野生動物も研究対象にしている。屋久島と北海道を主なフィールドに哺乳類の生態を森林環境との関わり合いから研究し、生態の適応の解明を目指している。著書に「霊長類生態学」(杉山幸丸編著｜京都大学学術出版会)、「世界遺産屋久島」(大澤雅彦・田川日出夫・山極寿一編著｜朝倉書店)、「日本列島の野生生物と人」(池谷和信編｜世界思想社)などがある。

and more

エコノミクスデザインセッション

エビデンス時代の経済学の社会実装



経済学はいかに企業の実践の現場で役に立つのか。この問いに、組織全体として取り組むエコノミクスデザイン社と今年もコラボレーション企画によるセッションを開催します。経済学の知を企業内で活かすことは、欧米の先端企業において自ら経済学者を雇うケースが増えるなどスタンダード化しています。そうした中、実際にはどのように経済学の知を企業で活かすことができるのか、その実態と実践について幅広く伺う基礎理解編のセッションです。本セッションはDAY2の応用編へと続き、より具体的な経済学の知の企業活用についてケースを通じて学んでいきます。

15:45-17:00　DAY 1　Sept. 24

Speakers

5F E

宮本弘暁

一橋大学経済研究所、財務省財務総合政策研究所（総括主任研究官）

慶應義塾大学経済学部卒業、米国ウィスコンシン大学マディソン校にて経済学博士号取得（Ph.D. in Economics）。国際大学学長特別補佐・教授、東京大学公共政策大学院特任准教授、国際通貨基金（IMF）エコノミスト、東京都立大学教授を経て一橋大学経済研究所教授。専門は労働経済学、マクロ経済学、日本経済論。日本経済、特に労働市場に関する意見はWall Street Journal、Bloomberg、日本経済新聞、NHK等の国内外のメディアでも紹介されている。主な著書に、『101のデータで読む日本の未来』『51のデータが明かす日本経済の構造―物価高・低賃金の根本原因』（以上、PHP新書）、『日本の財政政策効果―高齢化・労働市場・ジェンダー平等』（日経BP）、『一人負けニッポンの勝機―世界インフレと日本の未来』（ウェッジ）などがある。

牧野百恵

独立行政法人日本貿易振興機構
アジア経済研究所 開発研究センター
経済モデル研究グループ長代理

"独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所 開発研究センター経済モデル研究グループ長代理
学位:博士（ワシントン大学）。専門分野は、開発ミクロ経済学、人口経済学、家族の経済学、南アジア経済。パキスタンやバングラデシュ等の南アジアをはじめとした、途上国の女性のエンパワメントや、ジェンダー格差の解消を目指した実証分析がテーマ。主な著書に、「ジェンダー格差――実証経済学は何を語るか」がある。"

尾崎大輔

日本評論社『経済セミナー』編集長

1981年生まれ。2004年、慶應義塾大学商学部卒業。シンクタンクなど勤務を経て、2021年より現職。2021年、東京都立大学大学院経営学研究科経済学プログラム修士課程修了、修士（経済学）。同大学院博士課程在学中

安田洋祐

大阪大学大学院経済学研究科 教授 /
株式会社エコノミクスデザイン 共同創業者

2002年東京大学卒業。最優秀卒業論文に与えられる大内兵衛賞を受賞し経済学部卒業生総代となる。米国プリンストン大学へ留学して07年Ph.D.（経済学）取得。政策研究大学院大学助教授、大阪大学准教授を経て、22年7月より現職。専門はゲーム理論、マーケットデザイン。20年6月に株式会社エコノミクスデザインを共同で創業し、コンサルティング業務やオンライン教育「ナイトスクール」を行う。政府の委員やテレビのコメンテーターとしても活動。主な著書に『日本の未来、本当に大丈夫なんですか会議』、『そのビジネス課題、最新の経済学で「すでに解決」しています。』（いずれも共著）など。

独演会（特別レクチャー）

新たな〈資本経済〉と場所

知的資本としての概念経済

Speakers

5F 会議室A

山本哲士

独立哲学者 / 文化科学高等研究院
ジェネラル・ディレクター

1948年 福井県生まれ。東京都立大学人文科学研究科博士課程修了。1975年よりメヒコCIDOCに遊学。元信州大学教授、東京藝術大学客員教授、文化科学高等研究院 ジェネラル・ディレクター、日本ホスピタリティ・ビジネス会議 ジェネラル・ディレクター、国際ホスピタリティ研究センター ジェネラル・ディレクター。
活動｜ホスピタリティビジネス・コンサルタント、場所環境設計スイス国際学術財団INTEHL ジェネラル・ディレクター。『月刊ベイスターズ』にて「哲教授のベイスターズ応援セミナー」を1996年より連載。『季刊iichiko』編集・研究ディレクター。

15:45-17:00 DAY 1 Sept. 24

科学と技術と社会がつながる SINIC理論と共に問う未来

1970年にオムロン創業者の立石一真さんが中心となって、科学と技術と社会をつなぐ接点から未来社会のトピックスを見出したSINIC理論。その背景には豊かな人文知の交流が存在しました。オムロンのグループ会社として未来研究を継承する、ヒューマンルネッサンス研究所の創設時からその進展に携わってきた中間真一さんをお招きし、人文知、自然科学、工学の交差から未来を問う時間を共に体験します。

17:30-18:45　DAY 1　Sept. 24

中間真一

株式会社ヒューマンルネッサンス研究所 エグゼクティブフェロー

1959年生まれ。慶応義塾大学工学部卒業、埼玉大学大学院(経済学)修了。株式会社ヒューマンルネッサンス研究所の創設メンバーとして参画し、オムロン創業者らによる未来予測理論「SINIC理論」を活かした未来社会研究に従事して現在に至る。「自動」「自律」「自然」をテーマとした人とテクノロジーのインタラクション、「遊」「学」「働」の未来展望など、創設以来Do tankを目指し、フィールドで未来予兆を探索し、「てら子屋」など未来の担い手が育つフィールドづくりも手がける。共著書に『スウェーデン―自律社会を生きる人びと―』(早稲田大学出版部)、『北欧学のフロンティア』(ミネルヴァ書房)など。

塩瀬隆之

京都大学総合博物館 准教授

京都大学総合博物館准教授。1973年生まれ。京都大学工学部卒業、同大学院工学研究科修了。博士(工学)。専門はシステム工学。2012年7月より経済産業省産業技術政策課にて技術戦略担当の課長補佐に従事。2014年7月より復職。小中高校におけるキャリア教育、企業におけるイノベーター育成研修など、ワークショップ多数。平成29年度文部科学大臣賞(科学技術分野の理解増進)受賞。著書に『問いのデザイン 創造的対話のファシリテーション』、『インクルーシブデザイン｜社会の課題を解決する参加型デザイン』(いずれも共著、学芸出版社)など。

砂川玄志郎

国立研究開発法人理化学研究所生命機能科学研究センター冬眠生物学研究チーム チームリーダー / 小児科医

国立研究開発法人理化学研究所 生命機能科学研究センター 冬眠生物学研究チーム チームリーダー / 小児科医 福岡県生まれ。2001年より小児科医として救急医療・麻酔・集中治療に従事。京都大学大学院医学研究科にて博士(医学)取得。大阪赤十字病院、国立成育医療センターで医師として勤務。2006年から「なぜ動物が眠るのか」という問いに答えるため、生理学・遺伝学・情報工学を組み合わせて個体レベルのシステム生物学を実践。2015年から理化学研究所 網膜再生医療研究開発プロジェクトでマウスを用いた冬眠研究を開始。2022年から研究室を主宰。

福永真弓

東京大学社会文化環境学専攻 准教授

東京大学社会文化環境学専攻准教授。2001年津田塾大学大学院国際関係論専攻修士課程修了、2007年日本学術振興会特別研究員、2008年東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻博士課程修了、同年立教大学社会学部助教、2011年大阪府立大学21世紀科学研究機構エコサイエンス研究所准教授、2012年大阪府立大学現代システム科学域准教授を経て、2015年より現職。日本社会学会若手奨励賞(論文の部)、著書に「サケをつくる人びと 水産増殖と資源再生」(東京大学出版会)などがある。

大黒達也

東京大学大学院 情報理工学系研究科・次世代知能科学研究センター准教授

1986年、青森県八戸市生まれ。2016年、東京大学大学院医学系研究科内科学専攻医学博士課程を修了。オックスフォード大学医科学部実験心理学部、マックスプランク研究所神経心理学部、ケンブリッジ大学教育神経科学研究所の研究員を経て、2020年4月より現職。音楽や言語がどのように学習されるのかについて、神経科学と計算論的手法を用い、領域横断的に研究。神経生理データから脳の「創造性」をモデル化し、創造性の起源とその発達的過程を探っている。また、それらの研究結果をもとに新たな音楽理論を構築し、現代音楽の制作にも取り組んでいる。著書に『芸術的創造は脳のどこから生まれるか?』『AI時代に「自分の才能を伸ばす」ということ』『音楽する脳 天才たちの創造性と超絶技巧の科学』、監修本に『GOOD VIBRATIONS 最高の体調をつくる音楽の活用法』などがある。

人文知の社会実装と文化資本の力

人文知の社会実装はいかにして為されるか。昨年のフォーラムでも大きな好評を得たリベラルアーツと企業の関係について、資生堂の文化資本政策を故福原義春氏と共に立ち上げ取り組んだ哲学者の山本哲士さんをお招きし、その実際について向き合います。日本企業が得るべき人文知の力とその学びを知り、経済に資する文化資本の力を学びます。

岩井睦雄

JT(日本たばこ産業株式会社)取締役会長 / 経済同友会 代表理事

1983年、東京大学経済学部卒業、日本専売公社(現·日本たばこ産業株式会社)入社。人事部、経営企画部、銀行研修(富士銀行ロンドン支店)を経て、経営企画部にて、ビジョン策定、中期計画、組織文化変革、コントローラー、ビジネス·ディベロップメントなどを経験。一般社団法人日本アスペン研究所監事、一般社団法人ダイアログ·ジャパン·ソサイエティー理事なども務める。

山本哲士

独立哲学者 / 文化科学高等研究院 ジェネラル·ディレクター

1948年 福井県生まれ。東京都立大学人文科学研究科博士課程修了。1975年よりメヒコCIDOCに遊学。元信州大学教授、東京藝術大学客員教授、文化科学高等研究院 ジェネラル·ディレクター、日本ホスピタリティ·ビジネス会議 ジェネラル·ディレクター、国際ホスピタリティ研究センター ジェネラル·ディレクター。
活動 | ホスピタリティビジネス·コンサルタント、場所環境設計スイス国際学術財団INTEHL ジェネラル·ディレクター。『月刊ベイスターズ』にて「哲教授のベイスターズ応援セミナー」を1996年より連載。『季刊 iichiko』編集·研究ディレクター。

尾崎勝吉

公益財団法人サントリー文化財団 専務理事

2012年よりサントリーホール支配人を経て、2018年4月よりサントリー文化財団専務理事に就任。

大室悦賀

長野県立大学ソーシャル·イノベーション研究科 研究科長

1961年 東京都府中市生まれ。一橋大学大学院商学研究科博士後期課程満期退学。一般企業、行政を経て現職。専門分野はソーシャル·イノベーション、当該分野における理論研究とそれに基づいたアクションリサーチを京都市や長野県で行っている。著書 | 『サステイナブル·カンパニー入門』、『ソーシャル·イノベーションの創出と普及』、『ソーシャル·ビジネス | 地域の課題をビジネスで解決する』、『ケースに学ぶソーシャル·マネジメント』、『ソーシャル·エンタープライズ』『NPOと事業』など。社会的課題をビジネスの手法で解決するソーシャル·ビジネスをベースにNPOなどのサードセクター、企業セクター、行政セクターの3つのセクターを研究対象として、全国各地を飛び回り、アドバイスや講演を行っている。

大学発スタートアップの成長のための経営人材との連携

大学発スタートアップはいかにして成長体制を手に入れることができるのか。全国に広がる大学発スタートアップは、今、多くの分野からの期待を受けつつあります。一方で、その成長には、先端的な研究の知だけでなく経営を前に進める人材が強く求められています。実際の現場で取り組むスタートアップ、支援者の両面から、大学発スタートアップが獲得すべき経営人材とその体制について共にその道筋を探ります。

真尾淑子

東京工業大学研究・産学連携本部 特任教授 / イノベーションデザイン機構 副機構長

投資銀行等での金融市場の調査に従事した後、スタートアップへの投資に携ったことがきっかけとなりスタートアップ・エコシステムに関心を持ち2022年よりGTIEに参加する。現在はGTIEにおいてGAPファンドを中心にスタートアップ・エコシステムの形成に取り組む。

草野秀樹

PwCコンサルティング合同会社
シニアマネージャー / 九州大学学術研究・産学官連携本部 アドバイザー

デザイン工学研究科修了（2012年）。マーケティング会社でのにて大手企業や地方自治体における商品開発支援からプロモーション、ブランディング戦略構築業務、新規事業開発支援や総合コンサルティングファームでの地方自治体や民間企業に対するイノベーション戦略やコーポレートベンチャリングに向けたプログラム支援、新規事業戦略立案支援の経験を経て2017年より現職。デザインシンキングを生かした地域産業の活性化に向けた企業の新規事業開発支援や課題解決支援、地域の変革に向けた戦略検討やデジタル活用、イノベーション人材育成を推進。九州における地方創生に向けた産官学連携プロジェクトの推進を担当。また、九州大学や熊本大学において講師を務め、デザイン×ビジネスの視点から地域イノベーション人材育成や産学連携を実践。

中嶋淳

アーキタイプグループ株式会社
代表取締役

1989年株式会社電通入社。各種企業コミュニケーション立案業務ののち、1994年からインターネットビジネス・スペシャリストとして100社以上のマーケティング・事業戦略立案、サービス/ブランド構築に携わる。2000年、株式会社インスパイア創業直後から合流。事業会社に対する新規事業コンサルティング、ベンチャー企業へのインキュベーションを担当。2005年取締役副社長就任。2006年5月アーキタイプ株式会社（現アーキタイプグループ株式会社）設立、代表取締役に就任。2013年12月Archetype Ventures設立。

鈴木健吾

株式会社ユーグレナ
エグゼクティブフェロー

東北大学特任教授。農学・医学博士。
東京大学農学部生物システム工学専修卒、2005年8月株式会社ユーグレナ創業、取締役研究開発部長就任。同年12月に、世界でも初となるユーグレナの食用屋外大量培養に成功。2006年東京大学大学院農学生命科学研究科修士課程修了。2016年東京大学大学院農学博士学位取得。2019年北里大学大学院医学博士学位取得。ユーグレナの利活用およびその他藻類に関する研究に携わるかたわら、ユーグレナ由来のバイオ燃料製造開発に向けた研究に挑む。

北川拓也

QuEra Computing 戦略顧問 /
元楽天常務執行役員CDO

経営者。ハーバード発の米国量子コンピュータースタートアップであるQuEra computingの戦略顧問。Well-being for planet earth、雲孫財団共同創業者。元楽天常務執行役員、CDO（チーフデータオフィサー）兼楽天技術研究所グローバル所長。グループ全体のAI・データ戦略・研究の実行を担い、日本を含む、アメリカやインド、フランス、シンガポールを含む海外5拠点の組織を統括した。過去に物性物理の理論物理学者として、非平衡のトポロジカル相の導出理論を提案。ハーバード大学数学・物理学専攻、同大学院物理学科博士課程修了。

エッセンスセッション

Academic Innovationと出会う未知の未来

脳・コンピューティング

「こんな知が存在するのか!」。エッセンスでの取材を通じて得たこの驚きを共有するための、先端研究に直接出会うピッチプレゼンテーションのセッションを今年も用意しました。エッセンスセッションでは、エッセンスの記事群から分野を超えて衝撃的な驚きを生み出す研究者にご登壇いただき、その研究の現在と未来についてお話を伺います。昨年に続く、その衝撃にぜひ出会ってみてください。

17:30-18:45　DAY 1　Sept. 24

Speakers

5F D

牛久祥孝

オムロン サイニックスエックス株式会社
プリンシパルインベスティゲーター

オムロン サイニックスエックス株式会社 プリンシパルインベスティゲーター。2014年 東京大学大学院情報理工学系研究科博士課程修了、NTTコミュニケーション科学基礎研究所入所。2016年に東京大学情報理工学系研究科講師を経て、2018年10月よりオムロン サイニックスエックス株式会社のプリンシパルインベスティゲーターに就任。また同時に2019年より、株式会社Ridge-iのChief Research Officerに就任し、現在に至る。主として画像キャプション生成など機械学習によるクロスメディア理解の研究に従事。

石津智大

関西大学文学部教授

関西大学文学部教授。2009年に慶應義塾大学大学院社会学研究科心理学専攻で心理学博士号を取得し渡欧。ロンドン大学ユニバーシティ校生命科学部生物科学科リサーチフェロー(2009−2016)、ウィーン大学心理学部リサーチャー(2016−2018)、ロンドン大学ユニバーシティ校生命科学部生物科学科シニアリサーチフェロー(2018−2020)などを経て現職。

畑田裕二

東京大学 大学院情報学環・学際情報学府
助教

2020年3月 東京大学大学院学際情報学府 修士課程 修了。2023年3月 東京大学大学院学際情報学府 博士課程 修了。同年4月より現職。博士(学際情報学)。専門はバーチャルリアリティ(VR)やアバターの心理学。アバター体験を通じた人の認知や行動、物語的自己の変容に関する研究に従事。

岩澤秀樹

株式会社Tengun-label 代表取締役 /
日本女子大学 学術研究員 / 3Dデータ
サイエンティスト / メディアアーティスト

1982年生まれ、香川県出身。
3D空間認識をテーマに、リアルタイム自由視点映像システム、SLAM、ロボティクス、3D姿勢解析、デジタルツインなどの研究開発に従事。
2020年Tengun-labelを設立し、大手研究機関や大学との連係を強化。
コンピュータサイエンスをベースとしたインタラクティブなアート作品の制作も行なっている。
近年は過疎化が進む地域をフィールドに、アート活動やデジタルツインを通じた地域創生事業も行っている。

金井良太

株式会社アラヤ 創業者兼CEO

2020年3月 東京大学大学院学際情報学府 修士課程 修了。2023年3月 東京大学大学院学際情報学府 博士課程 修了。同年4月より現職。博士(学際情報学)。専門はバーチャルリアリティ(VR)やアバターの心理学。アバター体験を通じた人の認知や行動、物語的自己の変容に関する研究に従事。

東大URAと紐解く研究知の最前線

良い研究者・おもしろい研究者とは一体どこにいるのか?その答えを知る一つの手がかりが、URAと呼ばれる大学内の研究支援を行う人材集団です。今回、エッセンスと協働する2人の東大URAの方々にお越しいただき、実際のおすすめ研究者をお連れいただくと共に、そのおもしろみをともに楽しむディスカッションの場を設けます。また、特別ゲストに、大手メディアのライター歴があり東京大学の研究者発信に「中の人間」としても携わった経験のある清水さんにお越しいただき、研究者のおもしろみを共に読み解いていきます。

17:30-18:45　DAY 1　Sept. 24

橘省吾

東京大学大学院理学系研究科
宇宙惑星科学機構 教授

1973年、石川県生まれ。1997年に大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻博士課程を修了し、東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻助教、北海道大学理学院自然史科学専攻准教授などを経て、現職。国際隕石学会 Nier Prizeやゴールドシュミット会議 Gast Lectureship、日本惑星科学会の最優秀研究者賞など国内外で多数受賞。著書に「星くずたちの記憶—銀河から太陽系への物語」(岩波科学ライブラリー)、「地球・惑星・生命」(共編)(東京大学出版会)など。

石川麻乃

東京大学大学院新領域創成科学研究科
先端生命科学専攻 准教授

2011年に北海道大学大学院環境科学院 博士後期課程を修了し、日本学術振興会特別研究員DC1、日本学術振興会特別研究員PD、国立遺伝学研究所 特任研究員、国立遺伝学研究所 ゲノム進化・研究系 助教、東北大学 大学院生命科学研究科 助教(クロスアポイントメント)を経て2021年より現職。主にトゲウオ科イトヨをモデルに生物の適応進化機構を研究している。科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞、日本生態学会宮地賞、日本進化学会研究奨励賞、日本動物学会奨励賞などを受賞。

馬場良子

東京大学理学系研究科 准教授 /
東京大学シニアURA

原子核物理学の研究に従事し、博士号取得後、2013年4月より日本科学未来館で科学コミュニケーターとして勤務。2015年4月より理学系研究科にURAとして着任。2021年1月より中央大学にて研究広報担当のURAとして勤務した後、2022年3月より現職。

中西もも

東京大学大学院農学生命科学研究科
准教授 / 東京大学URA

東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了、博士(農学)。Hospital for Sick Children(トロント)Post-doctoral fellow、科学技術振興機構 産学連携展開部調査員を経て、2016年より東京大学 大学院農学生命科学研究科 特任助教、2017年12月より同 特任講師、2021年4月より現職。東京大学One Earth Guardians育成プログラムにおいて、立ち上げ当初よりアドミニストレーターを務める。

清水修

一般社団法人アカデミックグルーヴ
代表理事

20年間のライター生活を経て、2005年、東京大学広報室に着任。東大広報誌『淡青』、書籍『東京大学アカデミックグルーヴ』等を編集制作。また、フリーペーパー『ミニ・アカデミックグルーヴ』をプロデュース。2013年、東北大学東北メディカル・メガバンク機構(ToMMo)広報・企画部門特任准教授に着任。広報誌『phrase』を編集制作。2015年、東北大学材料科学高等研究所(WPI-AIMR)広報・アウトリーチマネージャーに着任。2018年、フリーランスの編集者に戻り、一般社団法人アカデミックグルーヴを設立。

STORIUM特別セッション

CVC・VC・金融機関向け アカデミアスタートアップ 共創ピッチ

Speakers

5F 会議室A

西田宏平

株式会社TOWING 代表取締役CEO

1993年12月生まれ。滋賀県信楽町出身。名古屋大学大学院環境学研究科修了。大手自動車部品メーカーに就職した後、少年時代に食べていた畑直送のフレッシュな作物を地球でも宇宙でも食べられる未来を創るため2020年2月に株式会社TOWINGを弟と創業。在学時に学んだ人工土壌技術を活用した研究開発やコンサルティング、栽培システムの販売等の事業を行う。内閣府主催宇宙ビジネスコンテストS-Booster2019ファイナリスト。

高倉葉太

株式会社イノカ代表取締役

1994年生まれ。兵庫県出身。東京大学工学部を卒業、同大学院暦本純一研究室で機械学習を用いた楽器の練習支援の研究を行う。2019年4月に株式会社イノカを設立。サンゴ礁をはじめとする海洋生態系を室内空間に再現する「環境移送技術®」を構想し、研究開発を推進。2021年10月より一般財団法人 ロートこどもみらい財団理事に就任。同年、Forbes JAPAN「30 UNDER 30」に選出。

中島隆太

Kwahuu Ocean（OISTスタートアップ）

美術家、研究者、僧侶。ミネソタ大学ダルース校芸術学部准教授（絵画）、沖縄科学技術大学大学院 OIST客員研究員、博士（芸術工学）。生態学、行動学、進化生物学的な研究も手掛けており、その美学的な解釈を交えた学際的な作品の発表や研究成果を報告している。論文に "Can I Talk to a Squid? The Origin of Visual Communication Through the Behavioral Ecology of Cephalopod"や "Cephalopods Between Science, Art, and Engineering: A Contemporary Synthesis" などがある。

田崎有城

N-ARK（ナーク）代表取締役 /
株式会社エッセンス取締役

N-ARK（ナーク）代表。ディープテックスタートアップと並走しながらファイナンス視点も含めた総合的なハンズオン支援を行うクリエイティブファームKANDO代表。リアルテックファンドメンバーとしても多数のテックベンチャーを支援する。実績としてサイボーグベンチャー「MELTIN」では、国内外でのモメンタムづくりに貢献し、シリーズBにおいて20.2億円調達。パーソナルモビリティ「WHILL」MaaS事業CES展示、HRテック「ZENKIGEN」事業コンセプトリードなど。2021年に先端研究者のロングインタビューメディア「esse-sense｜エッセンス」共同創業。同年、気候変動に対応する海上建築スタートアップ「N-ARK｜ナーク 」創業。

鹿内学

株式会社シンギュレイト 代表取締役

群馬大学大学院で修士号を取得後、博士課程から奈良先端科学技術大学院大学へ進学し、博士（理学）を取得。2008年より京都大学の特定助教として、最初のキャリアを踏み出す。博士課程の大学院生の時を含めると約10年、認知神経科学の基礎研究に従事。脳情報で家電などを操作するブレイン・マシーン・インターフェースの国家プロジェクトにもかかわる。2015年よりビジネスサイドに軸足を移し、企業組織のマネジメントや人事のデータ分析であるピープル・アナリティクスに携わり、現在も第一線にて活躍を続ける。

17:30-18:45 DAY 1 Sept. 24

PROGRAM

DAY 2 Sept. 25

10:00-10:30 オープニングセッション 4F Ⓐ Ⓑ

10:30-11:30 基調セッション 4F Ⓐ Ⓑ
研究から起こる突破的イノベーションとその創出
新竹積｜武田秀太郎｜合田圭介

11:30-12:45 基調セッション 4F Ⓐ Ⓑ
大学発スタートアップエコシステムと地域から生まれるイノベーション
河野康｜大西晋嗣｜小林輝樹｜小野裕之｜渡部俊也

14:00-15:15 ジェンダードイノベーションの可能性 感性が生み出す価値 4F Ⓐ
長澤夏子｜安藤健｜大室悦賀｜石津智大｜鳴海拓志

OISTセッション 4F Ⓑ
OISTはなぜ優れた研究とイノベーションを起こし得るのか
ギル･グラノットマイヤー｜新竹積｜中島隆太｜大久保知美

研究者の足場を支える研究環境の変革 4F Ⓒ
生田知子｜草野秀樹｜瀧口友里奈｜北原秀治｜小野悠

大学発スタートアップと科学の社会実装 特別編 5F Ⓓ
武田秀太郎｜北岡康夫｜永田暁彦｜谷本有香

立命館セッション 5F Ⓔ
学内スタートアップエコシステムと連動する研究者支援の実際
山根大輔｜光斎翔貴｜堀井崇道｜and more

15:45-17:00 海洋エコシステムの理解から生まれる共生社会 4F Ⓐ
近藤倫生｜藤田香｜安田仁奈｜高倉葉太｜河宮未知生

研究と社会をつなぐイノベーションエコシステム 4F Ⓑ
大室悦賀｜谷本有香｜永田暁彦｜梅川忠典｜及部智仁

経営の新しい視点 研究知を活かす経営 4F Ⓒ
井上高志｜岸大介｜西原（廣瀬）文乃｜安池友時｜米倉誠一郎｜仲隆介

大学発スタートアップと科学の社会実装 脱炭素･気候変動･エネルギー 5F Ⓓ
森昌司｜野原徹雄｜冨岡克広｜伊原学｜福島康裕

エコノミクスデザインセッション 5F Ⓔ
AI時代のビジネスエコノミクス
西郷孝一｜藤田光明｜安田洋祐｜鹿内学

17:30-18:45 研究知が生きる社会という構造的変革によるソーシャルイノベーション 4F Ⓐ
井上英之｜小野悠｜南澤孝太｜渡邉さやか

民間資金が知的資本を支える社会の実現 4F Ⓑ
内田雅昭｜久保田しおん｜諸藤周平｜占部まり｜利根英夫

研究領域を支える資金と新たな経済の可能性 4F Ⓒ
安田洋祐｜渡邊拓｜伊藤毅｜酒井克也｜藤田淑子

大学発スタートアップと科学の社会実装 5F Ⓓ
情報科学･コンピューティング / フードテック･アグリテック
榎波康文｜竹井邦晴｜徳永旭将｜南谷靖史｜浪越毅

De-Siloセッション 5F Ⓔ
サイエンス&アートの融合の意味を問う
岡田弘太郎｜坪井あや｜松永エリック･匡史｜岡原正幸｜村津蘭

基調セッション

研究から起こる突破的イノベーションとその創出

圧倒的な破壊的イノベーションは本当に存在するのか。この問いに答えることができるかどうかは、研究知に求められる一つの視点です。今回、世代の異なる圧倒的な破壊的イノベーションを生み出してきた研究者にお越しいただき、その実際をお話しいただくと共に、破壊的イノベーションの源泉となるものの見方・視点についても共に学んでいきます。まずはその驚きの存在に出会ってください! 2日目の始まりを衝撃と共に切る基盤となるセッションです。

10:30-11:30　DAY 2　Sept. 25

Speakers　4F Ⓐ Ⓑ

新竹積

沖縄科学技術大学院大学
量子波光学顕微鏡ユニット 教授

沖縄科学技術大学院大学量子波光学顕微鏡ユニット教授。1955年、宮崎県生まれ。九州大学大学院工学研究科修了。博士(工学)。1983年から2002年まで高エネルギー加速器研究所に所属し、トリスタン計画、B-ファクトリー計画などの研究プロジェクトに参加。2002年から理化学研究所でX線自由電子レーザー施設(SACLA)の建設を指揮した。2011年から沖縄科学技術大学院大学で、ホログラフィーによる量子波光学顕微鏡、波力発電装置などの研究を進めている。US Particle Accelerator School Award、ヨーロッパ物理学会賞、光・量子エレクトロニクス業績賞(宅間宏賞)などを受賞。

武田秀太郎

九州大学都市研究センター 准教授

核融合工学を研究する傍ら、サステナビリティ学に実証的内容を持たせ、数理的手法により仮説検証を行う学問である「計量サステナビリティ学」を提唱・推進。一般社団法人計量サステナビリティ学機構・代表理事 兼 共同機構長。専門分野は再生可能エネルギーを中心とした持続可能なエネルギー源の社会経済分析(ライフサイクルアセスメント・システムダイナミクス)、技術評価。

合田圭介

東京大学大学院理学系研究科化学専攻・教授 / UCLA工学部生体工学科・非常勤教授 / 武漢大学工業化学研究院・非常勤教授

東京大学大学院理学系研究科化学専攻・教授、UCLA工学部生体工学科・非常勤教授、武漢大学工業化学研究院・非常勤教授。2001年にカリフォルニア大学バークレー校理学部物理学科を卒業(首席)。2007年にマサチューセッツ工科大学大学院理学部物理学科博士課程を修了(理学博士)。マサチューセッツ工科大学では、重力波の検出で2017年ノーベル物理学賞を受賞したLIGOグループで量子増強技術の開発に従事。2007年、カリフォルニア工科大学に短期滞在した後、カリフォルニア大学ロサンゼルス校工学部電気工学科に博士研究員・プログラムマネージャーとして、レーザーを用いた超高速イメージングと超高速分光法、マイクロ流体バイオテクノロジーの研究に従事。2012年、東京大学大学院理学系研究科化学専攻に教授として就任。現在は、様々な手法を融合することでセレンディピティを可能にする技術の開発を推進中。これまでに300近くの学術論文を発表、30以上の特許を出願し、4つのベンチャー企業を創業。日本学士院学術奨励賞、日本学術振興会賞、SPIE Biophotonics Technology Innovator Award、市村学術賞、文部科学大臣表彰科学技術賞、Philipp Franz von Siebold Awardなど30以上の賞を受賞。多数のグローバルリーダーの育成・輩出に貢献。

基調セッション

大学発スタートアップ エコシステムと地域から 生まれるイノベーション

研究発の破壊的イノベーションは、都心かそれ以外、東京かそれ以外、に関わりなく、その研究成果が起こった箇所から生まれます。今取り組まれる全国の大学発スタートアッププラットフォームは、日本各地から起こる研究知を発掘するための取り組みです。その取り組みに、北海道、東海、関西、九州・沖縄と4つのエリアの拠点運営に携わる方々にお越しいただき、特別モデレーターに東京大学副学長の渡部俊也さんをお招きして、各地の現状とその実態、また今後解消すべき課題と求めるパートナーについてお話しいただきます。大学発スタートアップを見出す取り組みの現状を一堂に知ることができるDAY2二つ目の基盤となるセッションです。

11:30-12:45　DAY 2　Sept. 25

Speakers

4F Ⓐ Ⓑ

河野康

名古屋大学学術研究･産学官連携推進本部
スタートアップ推進室

名古屋大学医学研究科博士課程修了。株式会社ツムラ、コロラド州立大学PDなどを経て、2002年に起業と同時に三重大学産学官連携コーディネーター として、産学連携全般に従事。2006年より名古屋大学に異動し、"B-jin"を起ち上げ、全国の博士人材のキャリアパスを支援。2015年、東海地域の5国立大学が参画して、アントレプレナーシップを教育する "Tongali" を創設。現在25機関に拡大し、東海地域のアントレプレナーシップ教育、研究成果型大学発ベンチャーの起業支援を行っている。

大西晋嗣

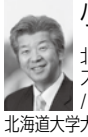
九州大学 副理事 / PARKS

2003年、京都大学大学院農学研究科を修了。07年、関西TLO株式会社入社、13年から18年まで代表取締役社長。2020年、九州大学学術研究･産学官連携本部教授に就任。同年10月より九州大学副理事（産学官連携）。24年4月より九大OIP株式会社･代表取締役。

小林輝樹

京都大学産官学連携本部
スタートアップ支援部門部門長 / KSAC

起業支援プログラムの制度設計から運営、各プロジェクトへの支援のほか、主に関西圏の大学で構成されるスタートアップエコシステム形成支援プラットフォーム「関西スタートアップアカデミア･コアリション（KSAC）」の運営も担う。



小野裕之

北海道大学産学･地域協働推進機構
スタートアップ創出本部 副本部長特任教授
/ HSFC

北海道大学大学院工学研究科修士課程修了、1990年4月、株式会社リクルート入社。人事･営業を経て新規事業開発担当にとしてインターネットを活用したサービスの事業化に着手、3年で黒字化達成。その後IT企業を中心に多くの新規事業開発に携わる。その後サンプリッジ社でのセールスフォース事業の立上げ他、経営者としていくつもの企業運営を行う。2023年6月に北海道大学に帰還、本学の知財を活用したスタートアップ企業の創出を推進している。2024年4月よりHSFCプログラム代表就任

特別モデレーター

渡部俊也

東京大学未来ビジョン研究センター
教授（副センター長）/
東京大学 執行役･副学長

1959年東京都生まれ、1984年に東京工業大学無機材料工学専攻修士課程を修了。その後、民間企業を経て、1994年に同大学無機材料工学専攻博士課程修了（工学博士）。1998年東京大学先端科学技術研究センター客員教授、2001年からは同センター教授。現在は、東京大学執行役･副学長、未来ビジョン研究センター副センター長、産学協創推進本部本部長、工学系研究科技術経営戦略学専攻教授（兼）、一般社団法人日本知財学会理事（会長）などを務める。知的財産政策とマネジメントに関する実証分析やケーススタディーなどを通じて、知的財産政策、イノベーション政策や技術経営の分野で研究論文等多数。政府の知的財産戦略本部構想委員会座長、経済安全保障分野におけるセキュリティ･クリアランス制度等に関する有識者会議座長などを兼務。

ジェンダードイノベーションの可能性

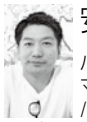
感性が生み出す価値

女性ならではの視点。それはより解像度高くみると、一人一人の感性の違いから見える世界観かもしれません。ジェンダードイノベーションは、お茶の水大学と三井不動産の産学連携の共同研究として、その世界観に注目して取り組む新たな価値創出の試みです。本セッションでは、感性を価値に転じる実際の取り組みを持つ企業側・研究側両面の方にお越しいただき、イノベーション創出の視点を交えながら、その感性の価値について共に探求し、見出していきます。感性が持つ価値について、新たな視点を得る時間です。

長澤夏子

お茶の水女子大学 教授 /
東北大学工学研究科 都市・建築学専攻
教授

お茶の水女子大学基幹研究院・准教授。京都生まれ、専門は建築計画学、環境生理心理、建築健康学。建築の利用者の行動、心身の面からみた健康に暮らす住まいの研究を行っている。1995年早稲田大学建築学科卒業、2000年同大学大学院博士課程退学。1998-2001年早稲田大学理工学部建築学科助手。2001-2007年理工学総合研究センター。2007-2009年早稲田大学先端科学・健康医療融合機構（ASMeW）講師。2009～2015年早稲田大学理工学総合研究所研究員。2015年お茶の水女子大学准教授



安藤健

パナソニックホールディングス株式会社
マニュファクチャリングイノベーション本部
/ ロボティクス推進室 室長

大学（理工学部・医学部）のロボット研究者を経て、パナソニック入社。ロボティクスの要素技術の研究開発から事業開発まで幅広く取組むとともにRobotics Hubの運営委員長も務める。機械学会ロボメカ部門技術副委員長、ロボット学会評議員など学会活動も積極的に実施。

大室悦賀

長野県立大学ソーシャル・イノベーション
研究科 研究科長

1961年 東京都府中市生まれ。一橋大学大学院商学研究科博士後期課程満期退学。一般企業、行政を経て現職。専門分野はソーシャル・イノベーション、当該分野における理論研究とそれに基づいたアクションリサーチを京都市や長野県で行っている。著書｜『サステイナブル・カンパニー入門』、『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』、『ソーシャル・ビジネス｜地域の課題をビジネスで解決する』、『ケースに学ぶソーシャル・マネジメント』、『ソーシャル・エンタープライズ』『NPOと事業』など。社会的課題をビジネスの手法で解決するソーシャル・ビジネスをベースにNPOなどのサードセクター、企業セクター、行政セクターの3つのセクターを研究対象として、全国各地を飛び回り、アドバイスや講演を行っている。

石津智大

関西大学文学部 教授

関西大学文学部教授。2009年に慶應義塾大学大学院社会学研究科心理学専攻で心理学博士号を取得し渡欧。ロンドン大学ユニバーシティ校生命科学部生物科学科リサーチフェロー（2009−2016）、ウィーン大学心理学部リサーチャー（2016−2018）、ロンドン大学ユニバーシティ校生命科学部生物科学科シニアリサーチフェロー（2018−2020）などを経て現職。

鳴海拓志

東京大学大学院情報理工学系研究科知能機械情報学専攻・工学部機械情報工学科（兼担） 准教授

1983年生まれ。2008年東京大学大学院学際情報学府修了。2011年東京大学院工学系研究科博士課程修了。2011年東京大学院情報理工学系研究科助教、2016年より講師（情報学環兼担）を経て、2019年より現職。博士（工学）。バーチャルリアリティ（VR）や拡張現実感（AR）の技術と、認知科学・心理学の知見を融合することで、人間の感覚情報処理の仕組みの解明と、その特性に基づいて知覚や認知に効果的に影響を与えることが可能なインタフェースを開発する研究に取り組む。

OISTはなぜ優れた研究とイノベーションを起こし得るのか

OISTはなぜ優れた研究とイノベーションを起こし得るのか。2019年、世界の大学ランキングの一つで日本国内のトップ（世界9位）に登場した沖縄科学技術大学院大学（OIST）は、2011年に設立された新設の私立の大学院大学です。一方で、10年強を経て、近年OISTの組織マネジメントのあり方、組織運営のあり方に大きな注目が集まります。本セッションでは、OIST首席副学長のギル・グラノットマイヤーさんに特別にお越しいただき、OISTの研究者、OIST発スタートアップ、OIST組織運営サイドと異なる立場のプレイヤーと共に、その実際を読み解きます。

14:00-15:15　DAY 2　Sept. 25

ギル・グラノットマイヤー

沖縄科学技術大学院大学首席副学長

テルアビブ大学で法律の学士号とMBAを取得後、イスラエルの複数の法律事務所にて、著作権、サイバー法、企業、銀行などの分野で活躍。その後、イスラエルのワイツマン科学研究所の技術移転や事業化を担う企業、Yeda社に入社し最初は法律顧問として後にCEOへ。現在は、OISTの主席副学長に就任し、主に技術開発イノベーション担当として日々その手腕を発揮

新竹積

沖縄科学技術大学院大学
量子波光学顕微鏡ユニット教授

沖縄科学技術大学院大学量子波光学顕微鏡ユニット教授。1955年、宮崎県生まれ。九州大学大学院工学研究科修了。博士（工学）。1983年から2002年まで高エネルギー加速器研究所に所属し、トリスタン計画、B-ファクトリー計画などの研究プロジェクトに参加。2002年から理化学研究所でX線自由電子レーザー施設（SACLA）の建設を指揮した。2011年から沖縄科学技術大学院大学で、ホログラフィーによる量子波光学顕微鏡、波力発電装置などの研究を進めている。US Particle Accelerator School Award、ヨーロッパ物理学会賞、光・量子エレクトロニクス業績賞（宅間宏賞）などを受賞。

中島隆太

Kwahuu Ocean（OISTスタートアップ）

美術家、研究者、僧侶。ミネソタ大学ダルース校芸術学部准教授（絵画）、沖縄科学技術大学大学院 OIST客員研究員、博士（芸術工学）。生態学、行動学、進化生物学的な研究も手掛けており、その美学的な解釈を交えた学際的な作品の発表や研究成果を報告している。論文に "Can I Talk to a Squid? The Origin of Visual Communication Through the Behavioral Ecology of Cephalopod" や "Cephalopods Between Science, Art, and Engineering: A Contemporary Synthesis" などがある。

大久保知美

OISTメディア連携セクションマネージャー

様々な国や分野でコミュニケーション及び広報業務に従事してきた経験から、幅広いネットワークを構築。OISTにおいて、戦略的メディア・コミュニケーションの企画・実施・管理を行っています。OISTメンバーと国内外のメディアとの間の主要窓口となっており、着任後にOISTは国内外の著名メディアで取り上げられることが多くなりました。さらに、新聞コラムやウェブ記事の執筆、ソーシャルメディアへの投稿、イベントの企画など、OISTの知名度向上に貢献しています。フランスソルボンヌ・パリ第一大学及びパリ・ドーフィン大学においてMBA取得。公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会 PRプランナー。

研究者の足場を支える研究環境の変革

研究者がそのポテンシャルを遺憾なく発揮し、高い成果を出すために、どのような環境設定がなし得るのか。この問いは、今研究者が置かれている環境にどのような課題があり、其の課題をいかにして創造的に解消するのか、という問いと一対になっています。本セッションでは、「2040 年の科学・学術と社会を見据えて いま取り組むべき10の課題」の調査に取り組んだ日本学術会議若手アカデミー幹事役の小野悠さん、日本科学振興協会（JAAS）代表理事の北原秀治さんをお迎えし、行政と企業、民間、それぞれの立場で施策に取り組む方々と共に学び、考え、創造するための機会です。

生田知子

文部科学省研究振興局振興企画課長

これまでに文部科学省大臣官房、科学技術・学術政策局、高等教育局、内閣府特命大臣秘書官、同府科学技術・イノベーション推進事務局などで多くのポストを担当。人事院の官民交流制度を活用した行政の外側での業務経験も豊富。SciREX政策リエゾンには制度立ち上げ時から名を連ねる

草野秀樹

PwCコンサルティング合同会社
シニアマネージャー / 九州大学学術研究・産学官連携本部 アドバイザー

デザイン工学研究科修了（2012年）。マーケティング会社でのにて大手企業や地方自治体における商品開発支援からプロモーション、ブランディング戦略構築業務、新規事業開発支援や総合コンサルティングファームでの地方自治体や民間企業に対するイノベーション戦略やコーポレートベンチャリングに向けたプログラム支援、新規事業戦略立案支援の経験を経て2017年より現職。デザインシンキングを生かした地域産業の活性化に向けた企業の新規事業開発支援や課題解決支援、地域の変革に向けた戦略検討やデジタル活用、イノベーション人材育成を推進。九州における地方創生に向けた産官学連携プロジェクトの推進を担当。また、九州大学や熊本大学において講師を務め、デザイン×ビジネスの視点から地域イノベーション人材育成や産学連携を実践。

瀧口友里奈

株式会社グローブエイト代表取締役 /
東京大学工学部アドバイザリーボード /
新生銀行 社外取締役

東京大学出身。
在学中にセントフォースに所属して以来、フリーアナウンサーとして活動。
幼少期に米国に滞在した帰国子女（TOEIC955点）。
現在は、日経CNBCにて経済キャスターとして毎日生放送のマーケット番組や、経営者インタビュー番組「日経STARTUP X」のMCを務める。
またForbesJAPAN コントリビューティングエディターとして、イノベーション、スタートアップ、テクノロジーなどの領域の取材・記事の執筆を行う。
シリコンバレーにも足を運び、これまでに多くの経営者やトップランナーを取材。

北原秀治

東京女子医科大学先端生命医科学研究所
先端工学外科学分野 准教授・博士（医学）

日本歯科大学卒業、東京女子医科大学大学院医学研究科修了、早稲田大学大学院経済学研究科中途退学。ハーバード大学/マサチューセッツ総合病院博士研究員を経て現職。博士（医学）。専門は基礎医学（人体解剖学、腫瘍病理学）、医療経済学、医療・介護のデジタル化。日本科学振興協会（JAAS）代表理事。海外日本人研究者ネットワーク（UJA）理事。横浜市医療局顧問。早稲田大学校友会稲門医会理事。

小野悠

豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系
准教授 / 日本学術会議若手アカデミー

1983年、岡山市生まれ。東京大学卒、工学博士（東京大学）。愛媛大学防災情報研究センター特定准教授、松山アーバンデザインセンター副センター長などを経て2017年に豊橋技術科学大学大学院工学研究科講師、22年1月から准教授。同年4月からは学長補佐も務める。インフォーマル市街地の研究で日本都市計画学会論文奨励賞や日本建築学会奨励賞などを受賞。日本学術会議連携会員（第25期若手アカデミー幹事）。日本科学振興協会（JAAS）第1期代表理事。

大学発スタートアップと科学の社会実装

特別編

大学発スタートアップという科学の社会実装は地方からこそ起こり得る。その実際を、政策・施策、民間・金融、起業家・研究者、と異なる立場の最前線の方々をお招きし、大学発スタートアップが持つ可能性をいかにして発揮し得るのか、と共に問い・考えます。今、大学側は大きく変わりつつあります。その可能性は周縁部からこそ力強く起こりつつあります。新たなエネルギー技術は都心から生まれる必要はない。もしくは、新たなアグリテックは都心からでないと生まれ得ないのか。本セッションは、これらのテーマに正面から取り組む実際を知るメンバーと大学発スタートアップの未来を知るための道筋を共に見出し、学ぶ、共創的な時間です。

14:00-15:15 DAY 2 Sept. 25

武田秀太郎

九州大学都市研究センター 准教授

核融合工学を研究する傍ら、サステナビリティ学に実証的内容を持たせ、数理的手法により仮説検証を行う学問である「計量サステナビリティ学」を提唱・推進。一般社団法人計量サステナビリティ学機構・代表理事 兼 共同機構長。専門分野は再生可能エネルギーを中心とした持続可能なエネルギー源の社会経済分析（ライフサイクルアセスメント・システムダイナミクス）、技術評価。

北岡康夫

大阪大学共創機構イノベーション戦略部門
機構長補佐・部門長

大阪大学大学院電気工学専攻修士課程を経て、平成3年松下電器産業株式会社（現Panasonic株式会社）に入社。博士（工学）取得。平成18年大阪大学大学院工学研究科教授、平成22年10月経済産業省製造産業局ファインセラミックス・ナノテクノロジー・材料戦略室産業戦略官、平成26年4月大阪大学に復職し、令和2年より大阪大学共創機構イノベーション戦略部門機構長補佐・部門長現在に至る。

永田暁彦

UntroD Capital Japan代表取締役

株式会社ユーグレナの未上場期より、取締役として事業戦略・財務・バイオ燃料領域を主に管轄。2021年より同社のCEOに就任し、全事業執行を務める。2024年同社を退職。2015年、社会課題としてのディープテック投資を推進するリアルテックファンドを設立。2024年、同ファンドを運営するUntroD Capital Japanの代表取締役社長に就任した。日本初のNPOを母体とするソーシャルインパクトIPOを果たした雨風太陽の創業および経営や、ヘラルボニーの経営顧問を務めるなど、資本主義におけるソーシャルインパクトの実現に注力している。

谷本有香

Forbes JAPAN 執行役員 / Web編集長

証券会社、Bloomberg TVで金融経済アンカーを務めた後、2004年に米国でMBAを取得。その後、日経CNBCキャスター、同社初の女性コメンテーターとして従事。3000人を超える世界のVIPにインタビューした実績があり、国内においては多数の報道番組に出演。現在、経済系シンポジウムのモデレーター、政府系スタートアップコンテストやオープンイノベーション大賞の審査員、企業役員・アドバイザーとしても活動。2016年2月より『フォーブスジャパン』に参画。2020年6月1日より現職。「アクティブリスニング なぜかうまくいく人の「聞く」技術」（ダイヤモンド社）、「世界のトップリーダーに学ぶ一流の『偏愛』力」（ディスカヴァー・トゥエンティワン）などの著書がある。ロイヤルハウジンググループ株式会社上席執行役員、株式会社ワープスペース顧問

立命館セッション

学内スタートアップ エコシステムと連動する 研究者支援の実際

立命館がおもしろい! いやでもどのように? 関西の私学の雄の一つ、立命館大学では、インパクト投資の仕組みの立ち上げや、同じ学校法人として運営される小中高と連携した起業家教育、独自の若手研究者支援など、その規模と私立ならではのオリジナリティ(そしてもしかすると、関西人の面白みも)の追求を生かしたさまざまな施策に取り組みます。立命館の研究者はおもしろい。これは、多くの取材をしながら感じるエッセンス取材陣の感覚です。今回のセッションでは、立命館で取り組まれる額ないスタートアップエコシステムの施策と、その施策に連動する実際の研究者にお越しいただき、そのおもしろみを共に読み解いていきます。

14:00-15:15 DAY 2 Sept. 25

Speakers

5F E

山根大輔

立命館大学理工学部 機械工学科 准教授

立命館大学 理工学部 機械工学科 准教授、立命館先進研究アカデミー(RARA)アソシエイトフェロー(兼任)。MEMSセンサ,MEMSエナジーハーベスタ,集積化CMOS-MEMSなどの研究に従事。オール半導体プロセスによるエレクトレットとMEMSの集積化技術について事業化を推進中:2023年度「滋賀テックプランター」ファイナリスト(京セラ賞受賞)、2024年度「NEDO:大学発スタートアップにおける経営人材確保支援事業(MPM)」対象チームに採択。

光斎翔貴

立命館グローバル・イノベーション推進機構 准教授

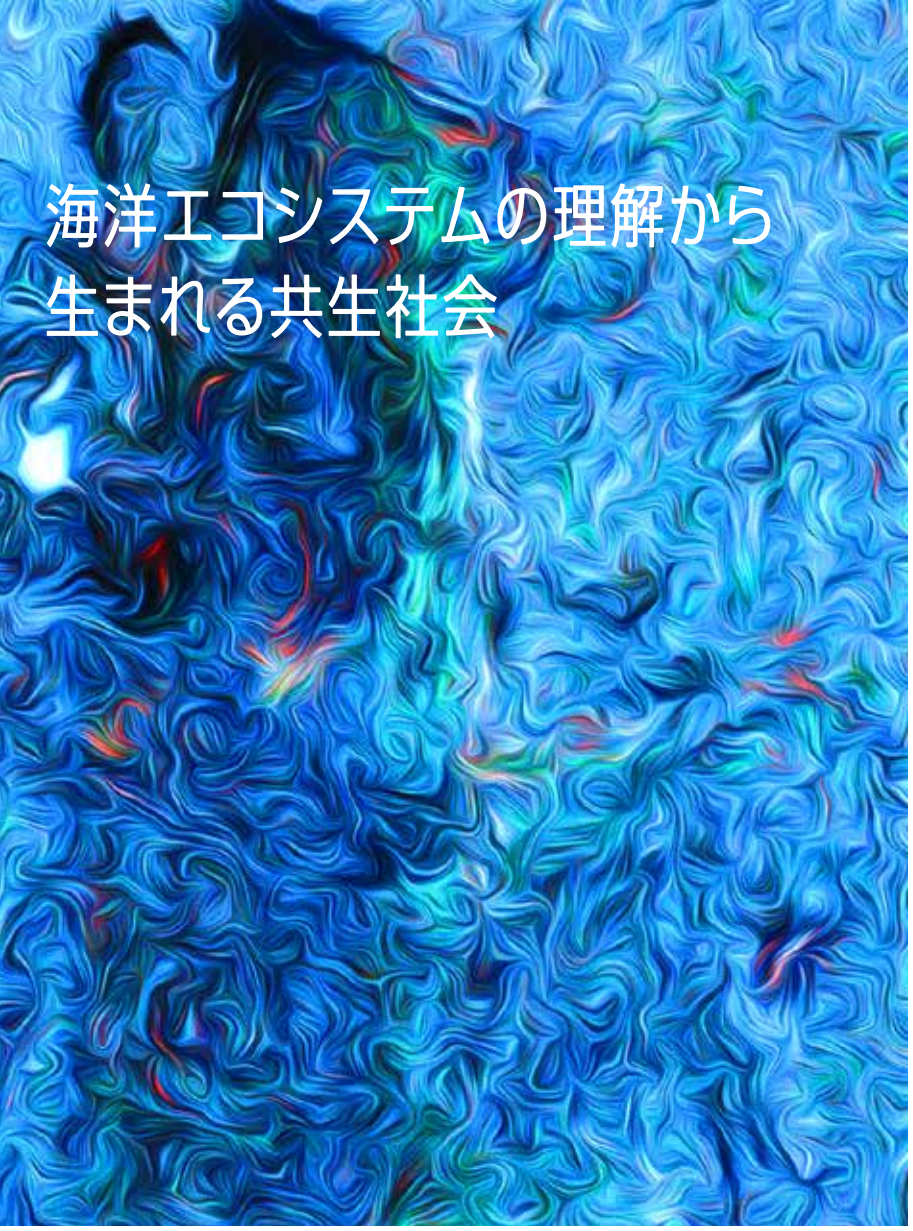
1992年生まれ。京都大学エネルギー科学研究科博士後期課程修了。博士(京都大学エネルギー科学)。エネルギー・資源・環境と社会との関わりをテーマとして、基礎研究から社会実装までをモットーに日々奮闘中。

堀井崇道

立命館大学研究部BKCリサーチオフィス 課長補佐

2013年度入職/新卒採用。立命館大学政策科学部を卒業後、新卒で立命館に2013年4月に入職。初任職場は情報システム部情報基盤課。その後2018年に総務部校友・父母課に配属。半年間の育児休暇を経て2020年5月より研究部BKCリサーチオフィスに配属され現在に至る。

and more



海洋エコシステムの理解から生まれる共生社会

海洋大国日本、というテーマは一体どのようにして実際のイノベーションとつながり得るのか。海洋は、日本が世界に先立って取り組み得る大きな強みであり、リソースであり、研究現場です。東北大学では、2024年に変動海洋エコシステム高等研究所（WPI-AIMEC）を立ち上げました。ブルーカーボン、海洋における生物多様性、これらは気候変動と脱炭素の次に来る世界的なテーマです。日本の強みをただの可能性で終わらせないために、日本が海洋大国という位置を生かすための知的資本へのアクセスをどのようにして築きえるか。本セッションでは、異なるセクターの実践者を交えた海のイノベーションへの道筋を探り、その可能性を共に学んでいきます。

近藤倫生

東北大学大学院生命科学研究科 教授 / 変動海洋エコシステム高等研究所（WPI-AIMEC）生態複合研究ユニット AIMECユニットリーダー

京都大学理学部卒業、京都大学理学研究科博士後期課程修了（博士（理学））。日本学術振興会PD、龍谷大学理工学部講師、准教授、教授を経て、2018年4月より現職。環境DNA学会（2018年設立）初代会長。日本生態学会宮地賞（2004年）、日本数理生物学会研究奨励賞（2009年）、Akira Okubo Prize（2011、日本数理生物学会・Society for Mathematical Biology）、文部科学大臣表彰若手科学者賞（2013）受賞。

藤田香

日経ESGシニアエディター 兼 東北大学グリーン未来創造機構 / 大学院生命科学研究科 教授

富山県魚津市生まれ。東京大学理学部物理学科卒、日経BPにて、日経エレクトロニクス記者、Nikkei Electronics Asia記者、ナショナルジオグラフィック日本版副編集長、日経エコロジー編集委員、日経ESG経営フォーラムプロデューサー、日経ESGシニアエディターなどを歴任。富山大学経済学部客員教授、富山国際大学現代社会学部客員教授。現在、東北大学グリーン未来創造機構・大学院生命科学研究科教授と日経BPのシニアエディターを兼任する。

安田仁奈

東京大学大学院農学生命科学研究科 教授

東京大学農学生命科学研究科、生圏システム学教授。日本学術会議連携会員、若手アカデミー副代表、Global Young Academyメンバー。日本サンゴ礁学会川口賞受賞。サンゴ礁生態系の保全に向けて、気候変動におけるサンゴのレフュージア（避難所）やサンゴを食べるオニヒトデの世界各地の大量発生がどのように起きるのかなどを初期生態を中心に野外調査や室内実験、遺伝子解析などにより研究をしています。

高倉葉太

株式会社イノカ代表取締役

1994年生まれ。兵庫県出身。東京大学工学部を卒業、同大学院暦本純一研究室で機械学習を用いた楽器の練習支援の研究を行う。2019年4月に株式会社イノカを設立。サンゴ礁をはじめとする海洋生態系を室内空間に再現する「環境移送技術®」を構想し、研究開発を推進。2021年10月より一般財団法人 ロートこどもみらい財団理事に就任。同年、Forbes JAPAN「30 UNDER 30」に選出。

河宮未知生

独立行政法人海洋研究開発機構
環境変動予測研究センター センター長
（上席研究員）

国立研究開発法人海洋研究開発機構・統合的気候変動予測研究分野分野長。愛知県生まれ。東京大学大学院博士課程修了。東京大学研究員、独キール海洋学研究所研究員などを経て現職

研究と社会をつなぐ イノベーションエコシステム

研究と社会、この二つはただつなげるだけではつながらない。では、どのようにつないでいけばよいのだろうか。研究知を生かしたイノベーションという論理的な構想を実現するために、研究の実際を知る民間側の取り組みが求められています。本セッションでは、昨年の基調講演でイノベーションエコシステムにおけるエコトーンの重要性に言及し、大きな反響を得た、大室悦賀さんを改めてお迎えし、最前線で取り組む方々と共に、イノベーションエコシステムの構築に向けた高い解像度の対話から、その具体を学ぶための時間です。

15:45-17:00 DAY 2 Sept. 25

大室悦賀

長野県立大学ソーシャル・イノベーション研究科 研究科長

1961年 東京都府中市生まれ。一橋大学大学院商学研究科博士後期課程満期退学。一般企業、行政を経て現職。専門分野はソーシャル・イノベーション、当該分野における理論研究とそれに基づいたアクションリサーチを京都市や長野県で行っている。著書｜『サステイナブル・カンパニー入門』、『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』、『ソーシャル・ビジネス｜地域の課題をビジネスで解決する』、『ケースに学ぶソーシャル・マネジメント』、『ソーシャル・エンタープライズ』『NPOと事業』など。社会的課題をビジネスの手法で解決するソーシャル・ビジネスをベースにNPOなどのサードセクター、企業セクター、行政セクターの3つのセクターを研究対象として、全国各地を飛び回り、アドバイスや講演を行っている。

谷本有香

Forbes JAPAN 執行役員 / Web編集長

証券会社、Bloomberg TVで金融経済アンカーを務めた後、2004年に米国でMBAを取得。その後、日経CNBCキャスター、同社初の女性コメンテーターとして従事。3000人を超える世界のVIPにインタビューした実績があり、国内においては多数の報道番組に出演。現在、経済系シンポジウムのモデレーター、政府系スタートアップコンテストやオープンイノベーション大賞の審査員、企業役員・アドバイザーとしても活動。2016年2月より『フォーブスジャパン』に参画。2020年6月1日より現職。「アクティブリスニング なぜかうまくいく人の「聞く」技術」(ダイヤモンド社)、「世界のトップリーダーに学ぶ一流の『偏愛』力」(ディスカヴァー・トゥエンティワン)などの著書がある。ロイヤルハウジンググループ株式会社上席執行役員、株式会社ワープスペース顧問

永田暁彦

UntroD Capital Japan代表取締役

株式会社ユーグレナの未上場期より、取締役として事業戦略・財務・バイオ燃料領域を主に管轄。2021年より同社のCEOに就任し、全事業執行を務める。2024年同社を退職。2015年、社会課題としてのディープテック投資を推進するリアルテックファンドを設立。2024年、同ファンドを運営するUntroD Capital Japanの代表取締役社長に就任した。日本初のNPOを母体とするソーシャルインパクトIPOを果たした雨風太陽の創業および経営や、ヘラルボニーの経営顧問を務めるなど、資本主義におけるソーシャルインパクトの実現に注力している。

梅川忠典

リージョナルフィッシュ株式会社 代表取締役

デロイトトーマツコンサルティング株式会社にて、経営コンサルティング業務に従事。株式会社産業革新機構に転職し、大手・中堅企業に対するバイアウト投資および投資先の経営に従事。2019年4月、リージョナルフィッシュ株式会社を設立し、代表取締役社長に就任。「J-Startup」「J-Startup Impact」や「京都・知恵アントレ大賞」「大学発ベンチャー表彰」経済産業大臣賞など多数受賞。NTTとの合弁会社を設立し、NTTグリーン&フード株式会社取締役CSO。

及部智仁

東京工業大学 特任教授 / 株式会社 quantum 代表取締役社長

世界トップクラスのベンチャービルダーを目指すスタートアップ・スタジオの(株)quantumを2014年に社内カンパニー化、2016年に法人格として創業。代表取締役に就任。博報堂100%子会社化。数多くの大企業との新規事業開発、ベンチャー組成やスタートアップのハンズオン支援を経験。また、大学との産学連携にて機械学習技術を活用したサッカー×AIの研究を行い、2017年にはスポーツデータ×機械学習を専門とする(株)sports AI を創業。サッカーの戦況予測AIをデジタル広告会社に事業売却。博報堂DYホールディングスの社内起業家プログラム(Ad+Venture)や京都大学グローバル起業家教育プログラムなど数多くのアクセラレーターや社内起業プログラム等でメンター・審査員を歴任するほか、書籍『スタートアップスタジオ』(日経BP)の翻訳出版・監修など、起業家支援だけでなく社内起業家、アカデミア起業家の数を多く輩出することを目指し活動する。

経営の新しい視点

研究知を活かす経営

研究知を活かせる経営者が存在することが、研究知と社会をつなぐ鍵になる。日本企業において、その経営者の博士号取得率はわずか2%。これはアメリカ企業の10%を大きく下回ります（修士課程は9%対50%）。では、経営者が博士号を取得しなければならないのか。それはもしかしたら一つの選択肢にすぎないかもしれません。株式会社LIFULLでは、2023年に、これまでと全く異なるアグリテック分野において研究知を最大限活かしたグループ会社LIFULL Agri Loop（ライフル アグリループ）を設立しました。本セッションでは、企業側の実践者と経営学における研究者が共に、研究活かす経営の可能性について対話を通じて探求します。特別ゲストには、一橋大学名誉教授の米倉誠一郎さんが登場です！

15:45-17:00　DAY 2　Sept. 25

井上高志

株式会社LIFULL 代表取締役会長

大学を卒業後、入社した株式会社リクルートコスモス（現、株式会社コスモスイニシア）勤務時代に「不動産業界の仕組みを変えたい」との強い想いを抱く。1997年、不動産テック企業として株式会社ネクスト（現｜株式会社LIFULL）を設立し、代表取締役に就任。2023年の社長退任後も代表取締役会長として株式会社LIFULLの経営に携わるほか、「世界平和」を目標としてさまざまな活動に携わっている。
一般社団法人 ナスコンバレー協議会 代表理事
特定非営利活動法人PEACE DAY 代表理事
一般社団法人 新経済連盟 理事
公益財団法人 Well-being for Planet Earth 評議員

岸大介

株式会社LIFULL Agri Loop
（ライフル アグリループ）代表取締役

1970年、兵庫県西宮市生まれ。神戸芸術工科大学卒業後、株式会社三祐インターナショナルに入社し「有機物を分解する鉄触媒技術」KET技術の海外及び国内販売窓口を担当する。
東日本大震災で農地改良依頼の多くが除染となった為にチェルノブイリ原発公団で放射性廃棄物管理及び電離放射線環境作業許可の資格を取得し農地除染を行う。その後原子力関連技術の開発等に携わるが、化学肥料高騰や自給率低下など日本の食料安全保障や農業問題に取り組む事を決意。
株式会社LIFULLのグループ会社として、「KET技術」の活用と普及を目的とした株式会社LIFULL Agri Loopを2024年に設立。あらゆる有機物をしっかりと土に戻して"健康な土"を作ることで、食・健康・環境に関する社会課題の解決に取組む。

西原（廣瀬）文乃

立教大学経営学部長 准教授

組織的知識創造理論をベースに、新たな価値創造のプロセスや仕組みに関して研究している。具体的には、真善美や共通善の実現を目指すイノベーションやリーダーシップ、新たな価値を創造する場づくりや知のエコシステム、現在を起点に過去から未来へ向かう戦略的ナラティブ・物語りについて、企業やコミュニティ、プロジェクトチームなどにおける事例の研究を行っている。
Scrum Inc.認定スクラムマスター（LSM）

安池友時

栗田工業株式会社 イノベーション本部
KIHセンター業務管理部業務課課長

栗田工業に入社後、主に技術開発に従事。2022年より、価値創出の起こる組織風土の醸成を目指し、制度・プロセスや人材育成などの数々の施策に取り組んでいる。人材育成プログラムの事務局として携わる中で、自分が大切にしている自然環境や人間関係における理想の姿が、「つながり、めぐる」という共通の言葉で表現できることに気づき、志向しているものがより確信に変わった。そのことが、取り組みを加速させる原動力になっている。

米倉誠一郎

一橋大学 名誉教授

一橋大学社会学部・経済学部卒、一橋大学大学院社会学研究科修士。同博士過程中退のうえ1982年一橋大学商学部産業経営研究所助手、1990年ハーバード大学大学院博士（Ph.D.）。一橋大学商学部専任講師・助教授・教授を経て、1997年より2017年まで同大学イノベーション研究センター教授。2017年から2024年まで法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科教授。学外活動では、ソニー株式会社経営戦略室コ・プレジデント、フランフラン社外取締役、南ア・プレトリア大学日本研究センター長を経て、教育と探求社非常勤取締役、インフロニアHD社外取締役、（社）Creative Responseソーシャルイノベーション・スクール学長、世界元気塾塾長、『一橋ビジネスレビュー』編集委員長を務める。著書に『イノベーターたちの日本史｜近代日本の創造的対応』。『経営革命の構造』など多数。

仲隆介

京都工芸繊維大学 名誉教授 /
合同会社NAKA Lab.代表

東京理科大学工学部助手、マサチューセッツ工科大学建築学部客員研究員（フルブライター）、宮城大学助教授、京都工芸繊維大学教授等を経て、現職。建築学と経営学の融合分野において、ワークプレイスをテーマの研究を行っており、同時に、企業や自治体と次世代のワークプレイスを模索する活動を展開している。新世代クリエイティブオフィス研究センター長、日経ニューオフィス賞審査委員、JFMA賞審査委員、長崎新県庁舎、西予市役所など多数の自治体アドバイザー、厚木市、北区他庁舎建築審査員などを務める。著書（共著）に、「変化するオフィス（丸善）」「オフィスの夢（彰国社）」「Post Office（TOTO出版）」「Collaborative Design and Learning: Competence Building for Innovation（PRAEGER）」などがある。

大学発スタートアップと科学の社会実装

脱炭素・気候変動・エネルギー

大学発スタートアップの具体を知るためには。本セッションは、昨年に続き、全国の大学発スタートアップエコシステムのGAP FUND（社会実装に向けた実験的取り組みのための資金）の採択に至った最前線の研究者をテーマ別に紹介し、その実際に取り組む事業・事業構想について伺います。また、各セッションにはVC・CVCの観点によるフィードバックコメントを加え、より事業としての発展を目指すための道筋について共に学びを得ていきます。

森昌司

九州大学 大学院工学研究院 教授 / カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所

1998年に九州大学工学部機械工学科を卒業後、同大学院で学び、2003年に博士（工学）を取得。その後、横浜国立大学で助手を経て准教授に昇任し、2019年に九州大学教授に着任。気液二相流、過熱水蒸気の急速生成、ハニカム多孔質体を用いた限界熱流束向上など、"パッシブ手法"をキーワードにエネルギー分野の課題解決に取り組んでいます。キーワード | 高発熱密度冷却、ハニカム多孔質体、沸騰、データセンター、パワーデバイス

野原徹雄

東海大学 総合科学技術研究所 研究員

小ー中型トラックや小ー中型船舶にカーボンニュートラル(CN) 燃料を併用しつつ、これまでの研究成果である"表面微細加工による噴霧液滴の微粒化制御" 技術により、レトロフィット(後付け装置)による車上でのCO2吸収・回収システムの提供や、回収したCO2を材料・化学・燃料メーカー等への販売、そしてカーボンクレジット取引も考慮した"排出CO2収入"ビジネスを提案する。

冨岡克広

北海道大学情報科学研究院 および 量子集積エレクトロニクス研究センター 准教授

1980年群馬県生まれ。2003年 群馬大学工学部電気電子工学科 卒業、2005年 同大大学院工学研究科 修士課程修了。2008年 北海道大学大学院情報科学研究科 博士課程修了、博士（工学）。2007年 日本学術振興会 特別研究員（DC2）、2008年 日本学術振興会 特別研究員（PD）。2009年 北海道大学 グローバルCOE研究員。2009年 科学技術振興機構 さきがけ「革新的次世代デバイスを目指す材料とプロセス」専任研究者。2015年より、北海道大学大学院情報科学研究科 助教、現在に至る。
研究分野：半導体工学、半導体結晶成長

伊原学

東京工業大学 物質理工学院 教授

1994年 東京大学工学系研究科化学工学専攻博士課程修了。東京大学工学系研究科化学システム工学専攻、東北大学多元物質科学研究所を経て、2004年に東京工業大学炭素循環エネルギー研究センター、理学研究科化学専攻 助教授。2016年、物質理工学院応用化学系 教授。また、東京工業大学 環境エネルギー機構 副機構長、学長補佐を歴任。2019年11月、東工大InfoSyEnergy 研究/教育コンソーシアム代表、2020年12月には東工大 エネルギー・情報卓越教育院長に就任、現在に至る。

福島康裕

東北大学大学院環境科学研究科 教授

学生時代、最先端の技術開発に打ち込む身の回りの研究者たちの研究成果が、どの程度将来の社会に役立つのかに興味を持つ。以来、化学に立脚する新規グリーン技術のプロセスシステム設計、技術経済性分析、シナリオ分析、ブレークイーブン分析による技術ターゲットの検討など技術アセスメントを専門として、国内外の実験グループとともに技術開発に取り組み、その社会実装への橋渡し役を担ってきた。1993年、埼玉県立川越高校卒. 2002年、東京大学より博士（工学）取得. 国立成功大（2004-2014、台湾）で教鞭を取ったのち、2014より東北大学に所属。

エコノミクスデザインセッション

AI時代のビジネスエコノミクス

企業が競争力を高め持続的な成長を目指すには、多角的なアプローチが求められます。既に、欧米の企業では、経済者を雇い経済学を活かすケースはめずらしくありません。
本セッションでは、ドラッグストアといった皆さんに身近な小売業の事例を通じて、顧客や従業員の行動変容をうながし、事業を変革するために経済学をビジネスの実践に落とし込むその実際を学びます。また、従業員がAIとの対話から学ぶことを通じてAIと連携し、データ分析の限界を超えたビジネスインサイトを得るアプローチを扱い、AIを社会の一部として包含した「AI時代の経済学」についてその具体を学んでいきます。

15:45-17:00　DAY 2　Sept. 25

Speakers

5F E

西郷孝一

株式会社薬王堂 代表取締役

大学卒業後、花王に入社。その後、2012年に株式会社薬王堂に入社。営業企画部部長、商品部部長、業務改革部部長、経営企画部長を経て、この2024年3月に株式会社薬王堂の代表取締役に就任。「東北から世界の健康をデザインする」をかかげ、薬王堂の中長期的な戦略立案と実行をするために、他業界の人材・企業とのコラボレーションも積極的に推進。データ活用では、ファクトブックでつちかったデータ分析基盤・組織基盤が「薬王堂PBMA」へと発展。データによる実店舗での効果検証と新しい購買体験を目指す。ON TRACKNIGHTS MIDDLE DISTANCE CIRCUITの男子800mでマスターズM45日本新記録を達成。

藤田光明

株式会社サイバーエージェント
シニアデータサイエンティスト

東京大学経済学研究科修士課程を修了後、データサイエンティストとしてサイバーエージェントに新卒入社。AI事業本部Dynalystで、オンライン広告配信アルゴリズムの改善における、分析・施策立案・アルゴリズム開発・プロダクト実装・効果検証の一連のフローやチームマネジメントに従事。また、社内研究組織との共著論文がWebConfなどのトップ国際学会に採択。その後、小売DX領域にて、リテールメディア事業の立ち上げやドラッグストアアプリのグロースに携わる。現在は、事業責任者として経済学を用いた価格最適化事業を推進している。2023年、Forbes Japan 30 Under 30に選出。

安田洋祐

大阪大学大学院大学院 経済学研究科教授
/ 株式会社エコノミクスデザイン
共同創業者

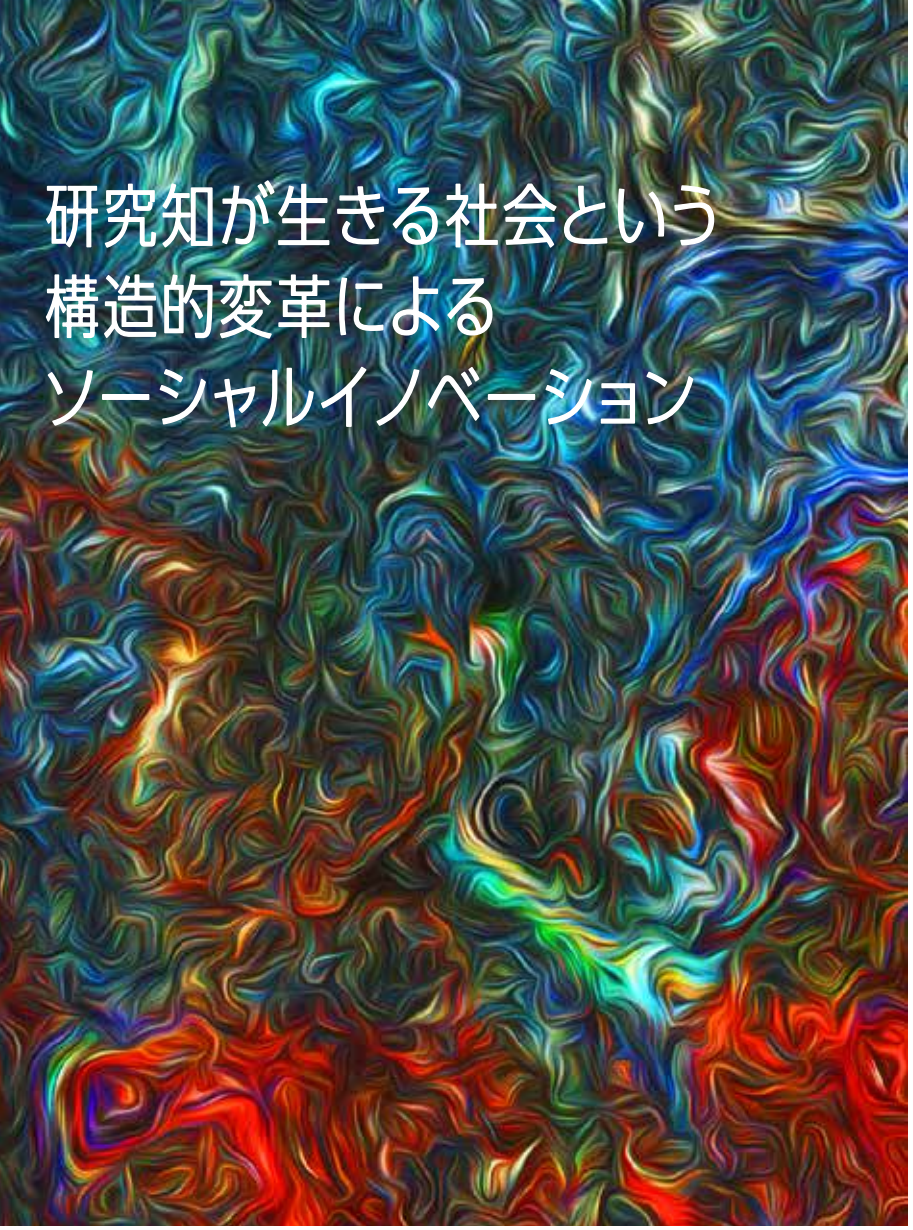
2002年東京大学卒業。最優秀卒業論文に与えられる大内兵衛賞を受賞し経済学部卒業生総代となる。米国プリンストン大学へ留学して07年Ph.D.(経済学)取得。政策研究大学院大学助教授、大阪大学准教授を経て、22年7月より現職。専門はゲーム理論、マーケットデザイン。20年6月に株式会社エコノミクスデザインを共同で創業し、コンサルティング業務やオンライン教育「ナイトスクール」を行う。政府の委員やテレビのコメンテーターとしても活動。主な著書に『日本の未来、本当に大丈夫なんですか会議』、『そのビジネス課題、最新の経済学で「すでに解決」しています。』(いずれも共著)など。

鹿内学

株式会社シンギュレイト 代表取締役

奈良先端大 博士(理学)。京都大学などの研究機関の教員・研究員として、ヒトの脳(認知神経科学)の基礎研究に第一線で従事。その後、大手人材企業でピープルアナリティクスの事業開発に取り組む中、株式会社シンギュレイトを設立。"信頼"をキーワードに企業組織マネジメントを再設計。事業として、ピープルアナリティクスの技術、学術研究などの知見を活用し、イノベーティブな組織づくりを支援している。1on1での話し方・聴き方を可視化する1on1サポーター「Ando-san」、イノベーティブな組織への変革を促す組織診断「イノベーション・サーベイ」を提供中。情報量規準が好き、漫画好き、サッカー好き。

研究知が生きる社会という構造的変革によるソーシャルイノベーション



研究知が生かされないという社会の矛盾を解くために、どのような構造的な変革を起こすことができるのか。このこと自体が、社会の課題解消としてのソーシャルイノベーションの大きなテーマとなり得ます。
本セッションでは、2023年に8,000人の若手研究者・関係者の調査をまとめ「2040年の科学・学術と社会を見据えて取り組むべき10の課題」を発出した日本学術会議若手アカデミーの新旧幹事をお迎えし、ソーシャルイノベーションの専門家2人との対話を通じて、その課題解消に向けた創造的な議論の場を始めます。

井上英之

一般社団法人 INNO-Lab International
共同代表

慶應義塾大学卒業後、外資系コンサルティング会社を経て、2003年に社会起業向け投資団体「ソーシャルベンチャー・パートナーズ(SVP)東京」を設立。若い社会起業家の育成や、新しい試みの生まれる生態系づくりに取り組む。2005年より、慶應義塾大学SFCで社会起業に関わるカリキュラムをつくり、そこから生まれた「マイプロジェクト」という学びの手法は、全国の高校生から社会人まで実践されている。2009年に世界経済フォーラム「Young Global Leader」に選出。2021年まで、慶應義塾大学特別招聘教授。2021年、「スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー日本版」を創刊。さとのば大学名誉学長(Chief Co-Learner)も務める。

小野悠

豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系
准教授 / 日本学術会議若手アカデミー

1983年、岡山市生まれ。東京大学卒、工学博士(東京大学)。愛媛大学防災情報研究センター特定准教授、松山アーバンデザインセンター副センター長などを経て2017年に豊橋技術科学大学大学院工学研究科講師、22年1月から准教授。同年4月からは学長補佐も務める。インフォーマル市街地の研究で日本都市計画学会論文奨励賞や日本建築学会奨励賞などを受賞。日本学術会議連携会員(第25期若手アカデミー幹事)。日本科学振興協会(JAAS)第1期代表理事。

南澤孝太

慶應義塾大学大学院メディアデザイン
研究科 教授 /
日本学術会議若手アカデミー

2005年 東京大学工学部計数工学科卒業、2010年 同大学院情報理工学系研究科博士課程修了、博士(情報理工学)
メディアデザイン研究科特別研究助教、特任講師、准教授を経て2019年より現職。触覚技術を活用し身体的経験を伝送・拡張・創造する身体性メディアの研究開発と社会実装、Haptic Design を通じた触感デザインの普及展開、新たなスポーツを創り出す超人スポーツやスポーツ共創の活動を推進。超人スポーツ協会 事務局長、科学技術振興機構 ACCELプログラムマネージャー補佐、IEEE Technical Committee on Haptics Vice Chair in Conference, Telexistence Inc. 技術顧問等を兼務。東京大学情報理工学系研究科長賞(2010)、日本バーチャルリアリティ学会学術奨励賞(2007)・論文賞(2012,2015,2016)、計測自動制御学会技術業績賞(2014)、グッドデザイン賞(2012,2016,2017)、VRクリエイティブアワード最優秀賞(2016)など各賞受賞。

渡邉さやか

長野県立大学ソーシャル・イノベーション
研究科 講師 / 株式会社re:terra 代表取締役
社長 / 一般社団法人AWSEN 代表理事

一般社団法人アジア女性社会起業家ネットワーク(AWSEN)代表理事、株式会社re:terra設立 代表取締役、株式会社ラポールヘア・グループ 取締役。専門は、地方地域における成人女性の創業促進におけるプログラム設計と評価、女性起業がコミュニティに与える影響、ソーシャル・イノベーション、ジェンダー、社会起業、女性起業、BoP/SDGsビジネス、国際協力、コミュニテイ開発。内閣府「アジア・太平洋輝く女性の交流事業」委員、岩手県女性就労委員会 委員。

民間資金が知的資本を支える社会の実現

民間財団・民間企業の研究支援が本来社会にとって必要な機能だとすると、その機能はいかに発展し得るのか。研究によって生み出される知的資本は、研究の世界で閉じて終わるわけではなく、社会にとって価値ある資源として生かされます。その価値の源泉をより豊かにするための循環とフィードバックの仕組みの一つとして、民間財団・民間企業の研究支援が果たせる役割は、扱う金額以上に大きなものです。
本セッションでは、民間財団・民間企業の研究支援が果たし得る社会的な役割について、複数の実際の運営者と共に具体的な取り組みに向けた議論を開始するための一歩を踏み出すための対話を行います。

内田雅昭

公益財団法人サントリー生命科学財団部長

公益財団法人サントリー生命科学財団部長。1985年、サントリー株式会社（現サントリーホールディングス株式会社）に入社。以来、新商品開発、ビール醸造科学や嗜好科学に関する基盤研究・新規技術開発、ビール工場や食品工場での製造マネジメントなどに33年間にわたり従事。サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社上席研究員を経て、2019年より現職。1985年京都大学大学院工学研究科修士課程修了。2000年京都大学より、工学博士を授与。1997年と2001年に、エリック・ニーン記念賞（Eric Kneen Memorial Award）をアメリカ醸造化学者学会（The American Society of Brewing Chemists）より受賞

久保田しおん

ハーバード大学 博士課程

1997年神奈川県横浜市生まれ。高校まで日本の女子校で過ごしたのち、米国Mount Holyoke Collegeに進学。物理（専攻）、哲学（Certificate）、コンピューターサイエンス（副専攻）、数学（副専攻）を学び、2019年に卒業。卒業後は、ハーバード大学にて1年間客員研究員としてニュートリノ検出器のデザイニング・エンジニアリングの研究を行い、その後、ハーバード大学物理博士課程に進学。現在はマンチェスター大学物理学部にも在籍し、世界最大のニュートリノ研究グループであるDUNEのプロジェクトに携わる。

諸藤周平

一般財団法人雲孫財団 代表理事 / REAPRA グループ CEO

1977年生まれ。九州大学経済学部卒業。エス・エム・エスの創業者、社長として同社の東証一部上場、アジア展開などを牽引し、退任。2015年にREAPRAをシンガポールにて創業。アジアを中心に事業グループを形成し、世代を跨ぐような社会課題を解決する産業の創造に向けた学習支援会社として投資活動をおこなう。社会とともにイキイキと生き続ける力を引き出す教育活動を行う活育財団や、9世代先を見据えた豊かさを模索する一般財団法人雲孫財団も運営する。

占部まり

宇沢国際学館取締役 / 内科医

1965年、シカゴにて宇沢弘文の長女として生まれる。東京慈恵医科大卒。現在は地域医療に従事するかたわら、宇沢の「社会的共通資本」をより多くの人に知ってもらうための活動を行う。京都大学人と社会の未来研究院にて、社会的共通資本の未来寄付研究部門が2022年5月1日に設立される予定。環境問題や教育・医療など社会的共通資本を軸に横断的な研究が期待されている。

利根英夫

公益財団法人トヨタ財団国際助成グループ プログラムオフィサー

公益財団法人日本国際交流センターにて、マルチセクターの国際的な対話プログラムや三大感染症（エイズ、結核、マラリア）対策のアドボカシー等に携わり、2014年にトヨタ財団に転職。アジアの共通課題に対する学びあいをテーマにした相互交流事業や、日本社会への外国人受け入れに関する助成プログラムを担当し、国内外の研究者、NGOや企業のスタッフ、自治体職員や地域住民等による調査研究や実践活動をサポートしている。

研究領域を支える資金と新たな経済の可能性

研究の世界を支えることは、経済にとってプラスであるなら、研究の世界を支えることを組み込んだ経済を描くことは可能なのか。この研究と経済の関係を問うことを、研究側だけでなく経済側からも問い、考え、描くために、本セッションでは複数の異なる資金の担い手をお招きし、創造的な対話に取り組みます。理想から現実へ、研究と経済の関係を循環的なものとするために、どのような道筋を描くことができるのか。その可能性について、実際の運用者の意見と共に検討を行い、また新たな参画可能性について見出していきます。

安田洋祐

大阪大学大学院経済学研究科 教授 /
株式会社エコノミクスデザイン 共同創業者

2002年東京大学卒業。最優秀卒業論文に与えられる大内兵衛賞を受賞し経済学部卒業生総代となる。米国プリンストン大学へ留学して07年Ph.D.(経済学)取得。政策研究大学院大学助教授、大阪大学准教授を経て、22年7月より現職。専門はゲーム理論、マーケットデザイン。20年6月に株式会社エコノミクスデザインを共同で創業し、コンサルティング業務やオンライン教育「ナイトスクール」を行う。政府の委員やテレビのコメンテーターとしても活動。主な著書に『日本の未来、本当に大丈夫なんですか会議』、『そのビジネス課題、最新の経済学で「すでに解決」しています。』(いずれも共著)など。

渡邊拓

HERO Impact Capital Founder&General Partner

1992年、京都府生まれ。洛南高等学校卒業。慶應義塾大学退学。在学中にNPO法人AIESEC JAPAN代表を務める。AI特化型インキュベーター兼VCであるDEEPCOREへ2017年に参画し、研究開発型スタートアップへの創業期投資を担当。2021年、地球課題解決に貢献する次世代研究者を支援する財団｜ZERO Foundationを設立し、代表理事に就任。2022年、若手研究者と共同創業するベンチャーキャピタル｜HERO Impact Capitalを設立、General Partnerに就任。同年、サステイナブルファイナンスによるアカデミアへの新たな資金循環を促す一般社団法人科学と金融による未来創造イニシアティブを設立、理事に就任。

伊藤毅

Beyond Next Ventures株式会社 CEO /
Managing Partner

2003年4月にジャフコ(現ジャフコ グループ)に入社。Spiberやサイバーダインをはじめとする多数の大学発技術シーズの事業化支援・投資活動をリード。2014年8月、研究成果の商業化によりアカデミアに資金が循環する社会の実現のため、当社を創業。創業初期からの資金提供に加え、成長を底上げするエコシステムの構築に従事。出資先の複数の社外取締役および名古屋大学客員准教授・広島大学客員教授を兼務。内閣府・各省庁のスタートアップ関連委員メンバーや審査員等を歴任。東京工業大学大学院 理工学研究科化学工学専攻修了

酒井克也

学校法人立命館 総務部付部長 /
財務部付部長 / 総合企画部付部長

立命館大学産業社会学部を卒業後、立命館に2004年4月に入職。財務部門やAPUで勤務。財務部門では2012年以降資産運用を担当、2019年にRIMIXの取組み立ち上げがきっかけとなり、2021年の起業・事業化推進室の設置へとつながる。2020年人事部に異動、2022年4月に財務部長と総合企画部長(起業・事業化推進担当)になり、2024年6月より現職。

藤田淑子

フィランソロピー・アドバイザーズ株式会社
代表取締役 / シニア・フィランソロピー・
アドバイザー

米・スイスの金融機関のプライベートバンキング部門において、個人富裕層の資産運用・管理、商品開発に20年以上携わる。その後、山口県において、地域活性化支援、障害者就労支援施設(B型)のマーケティング支援、子ども食堂・居場所の運営に携わる。NPO法人全国こども食堂支援センターむすびえの設立、認定取得を経験。2019年より、SIIFにて、新しいフィランソロピー事業の立ち上げ、社会起業家支援、インパクト測定&マネジメント、財団マネジメントに従事。

大学発スタートアップと科学の社会実装

情報科学・コンピューティング フードテック・アグリテック

大学発スタートアップの具体を知るためには。本セッションは、昨年に続き、全国の大学発スタートアップエコシステムのGAP FUND（社会実装に向けた実験的取り組みのための資金）の採択に至った最前線の研究者をテーマ別に紹介し、その実際に取り組む事業・事業構想について伺います。また、各セッションにはVC・CVCの観点によるフィードバックコメントを加え、より事業としての発展を目指すための道筋について共に学びを得ていきます。

榎波康文

長崎大学 教授

アリゾナ大学 光科学カレッジPhD、アリゾナ大学 光科学カレッジAssociate Reserch Professor、京都大学 産学官連携研究員（講師相当）、福井大学 大学院工学研究科助手、高知工科大学 大学院工学研究科助手、米国Lightwave Logic社 Director of Device Developmentを経て2020年から長崎大学 大学院工学研究科教授 現在に至る。専門:光科学、光デバイス、研究分野｜薄膜ガラスと有機物を用いた超高速で低消費電力光変調器、バイオフォトニックセンサ

竹井邦晴

北海道大学 大学院情報科学研究院
情報エレクトロニクス部門 教授

学生時代、豊橋技術科学大学 石田誠教授の下にて結晶成長、CMOS/MEMS技術を利用した神経電位計測デバイスの開発に従事。学位取得後、博士研究員として、アメリカのカリフォルニア大学バークレー校 Prof. Ali Javeyのグループに移り、ナノ材料を用いたボトムアップ法と、これまでのCMOS/MEMS技術であるトップダウン法を融合させる研究に従事、これまで実現が困難であった技術・デバイスの実現を目指してきた。大阪公立大学を経て、現在、北海道大学では、これまで分野の違いによって実現が困難とされてきた様々な研究分野をうまく融合することによって、全く新しい技術・デバイスなどの実現、またその分野のリーダーとなることを目指し研究を行っている。特に人間とエレクトロニクスの融合による次世代のデバイス技術の構築を目指す。

徳永旭将

九州工業大学 大学院情報工学研究院
知能情報工学研究系 准教授

九州工業大学情報工学研究院知能情報工学研究系・准教授。学生時代には東南アジア、南米やアフリカ等でのフィールドワークを経験。明治大学でのポスドク経験の後、高度情報科学技術研究機構で企業の大型計算機資源の利活用を促進するプロジェクトに従事。その後、情報システム研究機構・統計数理研究所にて神経科学分野の大型プロジェクトに参画。現在、九州工業大学においては、「現場に貢献できる」データサイエンス・AIの基盤技術の研究に取り組む。

南谷靖史

山形大学大学院理工学研究科 教授

山形大学工学部情報・エレクトロニクス学科教授。専門はパルスパワー工学、バイオエレクトリクス、放電工学。主な研究は、ガン治療、食品殺菌、食品加工、廃水・ガス処理、パルスパワーを利用した高出力電磁波・紫外線レーザー。特に生鮮食品の風味を変えることなく、かつ袋でパックした状態でも雑菌の繁殖を抑えることができる、新しい非加熱パルス電界殺菌法の研究を行っている。この方法は、生ものの殺菌の問題を解決でき、袋でパックされていても殺菌できることから、生鮮食品による食中毒を防止し、長期保存を可能にできる。

浪越毅

北見工業大学 地球環境工学科 准教授

機能性高分子合成を専門に市、難重合性モノマーの重合を研究し新たな機能性高分子材料の開発を行ってきた。2022年よりオホーツク農林水産工学連携研究推進センター 副センタ長（農業担当）を兼務。近年は機能性高分子材料を使った次世代農業システムを実現するため、ポリマーコーティンした種子の発芽タイミング制御について研究しており、秋播き越冬後の春に発芽を可能にする種子のコーティング材の開発を進めている。

De-Siloセッション

サイエンス&アートの融合の意味を問う

サイエンスとアートが出会うことにどのような意味があるのか。この、根源的な問いに取り組むために、実際にサイエンスとアートの間を生み出す複数の担い手と、その間で取り組む経験を持つ研究者をお招きし、両者の融合の意味を解きほぐしていくセッションです。サイエンスとアートが出会うことで、新しい価値創造やイノベーションが起こる、かもしれない。そのかもしれないは、どのようなプロセスの先に実現しようとしているのか。実際のサイエンスとアートの融合の最前線で起こっている体験と感覚を持ち寄り、その具体ともに学んでいきます。

17:30-18:45　DAY 2　Sept. 25

Speakers

5F E

岡田弘太郎

一般社団法人デサイロ(De-Silo)代表理事

編集者。一般社団法人デサイロ代表理事。『WIRED』日本版エディター。クリエイティブ集団「PARTY」パートナー。スタートアップを中心とした複数の企業の編集パートナー。アーティスト・なみちえのマネジメントを担当。研究者やアーティスト、クリエイター、起業家などの新しい価値をつくる人々と社会をつなげるための発信支援や、資金調達のモデル構築に取り組む。1994年東京生まれ。慶應義塾大学にてサービスデザインを専攻。「Forbes JAPAN 30 UNDER 30 2023」選出。

坪井あや

東京大学 カブリ数物連携宇宙研究機構 / JACST / ファンダメンタルズ プログラム代表

科学者と美術家の交流の仕組みづくりを行う企画「ファンダメンタルズ プログラム」の運営を2020年より行う。当企画では各ペアに運営側の担当が付き、前川×中島ペアの担当でもある。「ファンダメンタルズ プログラム」は2021年度、2022年度開催され、国内の科学技術の研究機関や大学などの広報担当が集まるインディペンデントな互助組織である「科学技術広報研究会(JACST)」の「隣接領域と連携した広報業務部会」が運営の中心を担う。

松永エリック・匡史

青山学院大学 地球社会共生学部 教授 学部長 / ビジネスコンサルタント / 音楽家

1967年、東京生まれ。青山学院大学大学院国際政治経済学研究科修士課程修了。幼少期を南米(ドミニカ共和国)やニューヨークなどで過ごし、15歳からプロミュージシャンとして活動、米国バークリー音楽院でミック・グッドリックに師事、JAZZギターを学ぶ。大手メーカーのシステムエンジニア、AT&Tを経たのち、コンサル業界に。アクセンチュア、野村総合研究所、日本IBMを経て、デロイトトーマツ コンサルティングにてメディアセクターAPAC統括パートナーに就任。その後PwCコンサルティングにてデジタルサービス日本統括パートナーに就任し、デジタル事業を立ち上げ、エクスペリエンスセンターを設立、初代センター長を務めた。2018年よりONE NATION Digital & Mediaを立ち上げ、大手企業を中心にデジタル変革(DX)のコンサルを行う。2019年、青山学院大学 地球社会共生学部 (国際ビジネス・国際経営学) 教授に就任、アーティスト思考を提唱。学生と社会人の共感と創造の場「エリックゼミ」において社会課題の解決に挑む。2023年より地球社会共生学部 学部長。

岡原正幸

慶應義塾大学名誉教授 / 一般社団法人岡原ゼミ

1957年生まれ。2023年3月31日に慶應義塾大学を定年退職するまで文学部教授および大学院社会学研究科委員長、慶應義塾評議員などを歴任。専門は、感情社会学、障害学、アートベース・リサーチで、パフォーマンスアーティストとしても活動。2006-2013年には「三田の家」というコモンハウスを三田キャンパス付近で運営、2015年からはKeio ABRというラボを大学院研究室で主宰、2021年からは博士人材育成プログラム(Keio Spring)としてアート、コミュニティデザイン、映像制作のワークショップを慶應義塾にある13の大学院研究科博士院生に提供、2022年からは「協生カフェ(三田キャンパスにLGBTQの人も安心できる居場所)」WGとしても活動。退職後はABRによるレジリエンス、エンパワーメントをゴールにする社会実装系の法人を設立予定。
慶應義塾大学研究連携推進本部次世代研究者育成特別委員
慶應義塾大学協生環境推進室ダイバーシティ推進委員

村津蘭

東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 助教

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・助教。文化人類学、マルチモーダル/映像人類学、アフリカ地域研究。文化人類学、映画、アートが交差する実践領域において、新たな知のあり様と可能性を探求する。著書に『ギニア湾の悪魔―キリスト教系新宗教をめぐる情動と憑依の民族誌』(世界思想社・2023年、国際宗教研究所賞受賞ほか)、編著書に「拡張するイメージ―人類学とアートの境界なき探究」(亜紀書房・2023年、共編)、映像作品に「トホス」(2018年東京ドキュメンタリー映画祭短編部門奨励賞受賞)などがある。

SPONSORS

特別協賛パートナー

SUNTORY

SUNBOR
SUNTORY FOUNDATION for LIFE SCIENCES
BIOORGANIC RESEARCH INSTITUTE
公益財団法人 サントリー生命科学財団

さあ、街から未来をかえよう
三井不動産
MITSUI FUDOSAN

pwc

プレミアムパートナー

Beyond
Next
Ventures

ブロンズパートナー

・HAKUHODO・

マテリアルパートナー

当社は、「主食をイノベーションし、健康をあたりまえに。」をミッションに掲げ、たんぱく質や食物繊維、26種類のビタミン・ミネラルなど1食に必要な33種類の栄養素がすべて摂れる完全栄養の主食「BASE FOOD(ベースフード)」を2017年より製造・販売。日本におけるスマートフード完全栄養食のパイオニアとして、「かんたん・おいしい・からだにいい」のすべてをかなえる新しい主食を提案し、すべての人が食事を楽しみながら、健康があたりまえになる社会の実現を目指しています。

ESSNS FORUM限定 送料500円分無料
クーポンコード | FORUM5
有効期限 | 2024年10月20日

※公式ショップのクーポンです。QRコードよりご購入ください。Amazonや楽天ではご利用いただけません。
※継続コースの購入が初めての方、もしくは過去BASE FOOD継続コースに登録されていた方限定(継続コース(常温)のみ適用可能 / おひとりさま1回限り有効)。

エッセンス「パトロンサービス」

推し研究者と共につくる人類の知の拡張に参加する月額定額制の資金提供プラットフォーム

esse-sense

エッセンスでは、誰もが研究者と直接繋がり研究の後押しをすることができる、新しい研究コミュニティ「パトロンサービス」を運用しています。

自由度の高い継続的な資金こそ、研究の基盤を支え、未知の世界の探究を後押ししてくれます。ぜひ、世界の知を広げる研究コミュニティにご参加ください!

Patrons

パトロンサービスでは、研究者からの定期的な講義・講演、研究室訪問など、研究の世界とつながり知の拡張をいち早く知ることが出来るコミュニケーションの機会を提供しています。

パトロン募集中の研究者

私たちはこの広大な宇宙でどのように生まれ、なぜ存在できるのか

久保田しおん
ハーバード大学
博士課程学生

市民とともにウェルビーイングな暮らしを共創するリビングラボの実践

坂倉 杏介
東京都市大学 都市生活学部
教授

神経美学で「美しい」とおもう感性と他者を慮るこころの関係を解き明かす

石津智大
関西大学 文学部
教授

クリエイションとウェルビーイングを向上させる新しい働き方「ソトワーク」の可能性

仲隆介
京都工芸繊維大学大学院
工芸科学研究科 名誉教授

サンゴとヒトの記憶を復元し、演劇によるアプローチで人と自然の関係性を探る

渡邊 剛
北海道大学 総合地球環境学研究所 研究部 准教授

リベラルアーツとしてのゲーム理論

安田 洋祐
大阪大学
教授

屋久島における死生観の変遷
(離島のGood Death研究)

杉下 智彦
屋久島尾之間診療所 理事長
(東京女子医科大学客員教授)

脳の創造性・音楽の発達的起源に関する研究

大黒達也
東京大学大学院情報理工学系研究科・次世代知能科学研究センター 特任講師

エッセンス「研究者プロフィールページ」

高機能&メディアと連携したアウトリーチ用の研究者プロフィールページシステム

エッセンスでは、最小化された手間と運用コストで対外向けに自身のプロフィールページを立ち上げることが出来る「研究者プロフィールページ」を運用しています(全てのサービスを無償で利用いただくことができます)。

エッセンスのプロフィールページは、わずか数分でページを立ち上げることができ、経歴、業績情報に加え、掲示板によるお知らせ機能、ドキュメント・動画の登録、取材記事やニュースリリースの登録、ゼミ生の登録、一般読者のフォロワー登録などを行うことができます。希望者の方には、パトロン募集を行なっていただくことも可能です(パトロン募集は希望する研究者のみのadd on機能になっています)。

また、2024年10月から運用開始するアップデート版では、講義動画のアーカイブの登録、一般向け講演・講義の開催情報の配信、それらをメディアesse-senseから配信するアウトリーチとの連携機能が加わります。

研究者プロフィールページの登録・立ち上げはこちらから
(利用は全て無償です/数分で実施できます)

エッセンス「研究者探索・レコメンドシステム」

生成AIを用いた非専門家の一般向け・民間向け研究者探索・レコメンドシステム

エッセンスでは、生成AIと独自のデータ形成技術(特許出願中)を用いて、非専門家の一般・民間側から研究者を見つけ出すための探索・レコメンドシステムの運用を2024年10月から開始します。

専門分野の特徴や、特殊なキーワードを知らなくても、知りたいテーマに対して関わりを持つ多様な研究者を見つけ出すことができる新しい探索・レコメンドのためのシステムです。

利用者は、気になるテーマのキーワード(ex、ウェルビーイング、気候変動、エネルギー)から、研究者プロフィールページに登録している研究者の推薦を推薦理由文章付きで受けることができます。

また、研究者は研究者ページを登録することで、一般・民間からの検索対象として自身の研究や関心をアウトリーチすることができます。

研究者探索・レコメンドシステムは、10月にリリースを予定しています。詳細は、エッセンストップページをご覧ください。

ミラツク出版事業部

エッセンスの母体であるNPO法人ミラツクでは、英治出版と事業提携を行い、制作ミラツク・発売英治出版という体制で、全国の書店への展開をはじめ、広く一般向けに新たな知を届ける出版事業を行っています。

2024年に発売された『インフォーマル・パブリック・ライフ —人が惹かれる街のルール（ミラツク出版）』は、発売前の多くの人の予想を裏切り、470ページの長文書籍にも関わらずAmazonでの売り上げ千番台を発売以来4ヶ月キープし続けています。

その背景には、ミラツクが15年かけて培ってきた全国の分野と業種・セクターを超えたコミュニティ型のプラットフォームの存在があります。多くの人たちに支えられ、ミラツクでは、分野を超えて知を届ける出版に取り組んでいます。

ミラツクからの新たな書籍の出版にご興味のある方は、
右記までお問い合わせください。

インフォーマル・パブリック・ライフ
人が惹かれる街のルール（ミラツク出版）

MIRA TUKU

NPO法人ミラツクが提供する企業・学術機関向けサービス

民間大手企業の新領域の事業立ち上げ、
企業内研究所の知的基盤の構築・イノベーション人材の育成、
学術機関のプロジェクトインパクト評価、などに取り組む支援事業

ミラツクでは、JAXAとの宇宙ビジネスプラットフォームの立ち上げ・運営、オムロンの未来研究所の構想・実行、パナソニックの研究開発部門における社内知的基盤の構築、慶應大学COI-NEXTプロジェクトのインパクトモデルの構築、東京芸術大学J-PEAKプロジェクトのインパクト測定、など、様々な領域で10年来にわたって400を超えるプロジェクトの実行支援を伴走者として行ってきました。

ミラツクの伴走支援は、時代に応じて求められるテーマ・領域、プロジェクト実行のあり方（共創型のプロジェクト実施、インパクト評価の導入、など）が変わる中、その変遷に素早く対応し、共に取り組むものとして一定の評価を得てきました。

ミラツクの支援事業にご興味のある方は、
右記までお問い合わせください。

esse-sense FORUM 2024 by

esse-sense

株式会社エッセンスは、「あらゆる研究「知」が自在に社会と混ざり合う機会を生み出す」ことをミッションに2021年に設立されたKnowledgeTechカンパニーです。

エッセンスが運営する研究者メディア「esse-sense」

esse-sense.com